

魅力あるまちづくりに関する
市民アンケート
報 告 書

令和2年12月

木 更 津 市

I. 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査方法	1
4. この報告書の見方	1

II. 調査の結果

1. 回答者の属性	3
2. 木更津市へのイメージについて	
（1）木更津市への愛着や誇り	5
（2）木更津市の魅力	8
（3）定住意向	11
（4）転出したい理由	15
3. 木更津市の取り組みについて	
（1）「オーガニックなまちづくり」の認知度	16
（2）市民活動の参加状況	18
（3）市民活動に対する市の取り組みの満足度	21
（4）市民活動を広めるための市の取り組み	22
（5）電子地域通貨「アクアコイン」の利用状況	23
（6）電子地域通貨「アクアコイン」の利用促進のための取り組み	25
（7）「きさらづ安心・安全メール」の登録状況	26
（8）「きさらづ安心・安全メール」に登録していない理由	28
4. 行政サービスに関する満足度、今後の優先度について	
（1）行政サービスに関する現在の満足度と今後の優先度	29
（2）現在の満足度と今後の優先度の加重平均による分析	32
（3）現在の満足度と今後の優先度の相関	35
5. 木更津市の情報について	
（1）木更津市に関する情報の入手方法	36
（2）木更津市に関する情報発信をより充実してほしい媒体	38
（3）木更津市に関する情報で知りたいこと	40

III. 調査結果の概要と考察	42
-----------------	----

I. 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、木更津市総合計画第2次基本計画に位置づけている施策の市民満足度や優先度等の調査・分析を行うことにより、PDCAサイクルを効果的に機能させ、計画の実効性を高めることで、今後の施策展開に資することを目的とする。

2. 調査項目

- (1) 木更津市へのイメージについて
- (2) 木更津市の取り組みについて
- (3) 行政サービスに関する満足度、今後の優先度について
- (4) 木更津市の情報について

3. 調査方法

- (1) 調査対象 木更津市に居住する満18歳以上の市民
- (2) 抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出
- (3) 標本数 2,000
- (4) 有効回収数 1,083 (有効回収率 54.2%)
- (5) 調査方法 郵送配布、郵送回収
- (6) 調査期間 令和2年7月27日(月)～8月12日(水)
- (7) 調査実施機関 株式会社エスピー研

4. この報告書の見方

- (1) 図表中の「n」は、質問に対する回答者数を示す。
- (2) 回答の比率(%)は、nを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。
このため、すべての選択肢の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の設問では、すべての選択肢の比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表作成の便宜上、一部の選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) 年齢別、職業別などのクロス集計では、nが小さい場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。特にnが30未満である層については、他の層と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、説明の文章ではふれていない。
- (6) 年齢別、職業別などのクロス集計では、年齢や職業などの分析項目となる質問に無回答であった層の結果を表示していない。したがって、すべての層の回答者数(n)の合計は、全体の回答者数(n)と一致しない場合がある。

(7) 質問によっては、平成30年6月に、今回調査と同じ調査方法で実施した「まちづくりに関する市民アンケート調査」の結果との比較を行ったほか、千葉県、千葉市および近隣市(市原市、袖ケ浦市、君津市、富津市)が実施した類似の調査結果との比較を行った。

これらの他の自治体調査と比較するにあたっては、質問文や選択肢は、この調査と必ずしも同じではないが、文言の趣旨が同じであると考えられる質問文や選択肢は、この調査と同一のものとして取り扱い、比較を行った。

比較を行った調査の概要は以下のとおりである。

実施主体	調査の名称	調査時期	調査方法	標本数	回収数
千葉県	第58回県政に関する世論調査	令和元年8月	郵送法 (Web回答可)	3,000	1,461
千葉市	平成30年度千葉市まちづくりアンケート	平成30年9月		10,000	3,398
市原市	市原市民意識調査	平成27年8月	郵送法	5,600	2,978
袖ケ浦市	袖ケ浦市まちづくりアンケート	平成29年9月		3,000	1,291
君津市	君津市第3次まちづくり実施計画策定に関する市民意識調査	平成30年6月		2,000	675
富津市	富津市市民アンケート調査	平成30年6月		2,000	422

(8) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。ただし、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \left[\begin{array}{ll} b = \text{標本誤差} & N = \text{母集団数} \\ P = \text{回答比率} & n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \end{array} \right]$$

上記の計算式に基づく標本誤差の早見表は以下のとおりである。

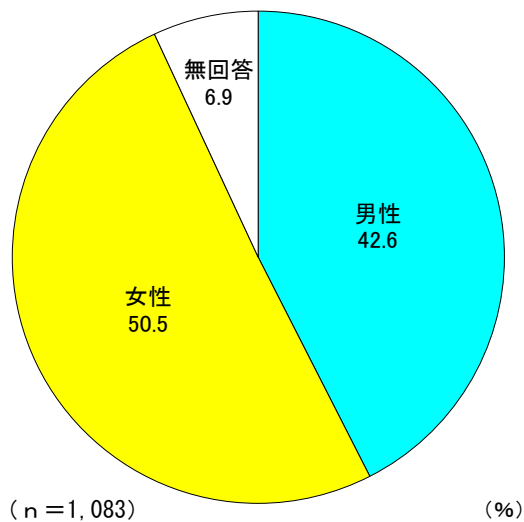
回答比率(P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,083 人	±1.82%	±2.43%	±2.79%	±2.98%	±3.04%
700	±2.27%	±3.02%	±3.46%	±3.70%	±3.78%
500	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
300	±3.46%	±4.62%	±5.29%	±5.66%	±5.77%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

Ⅱ．調査の結果

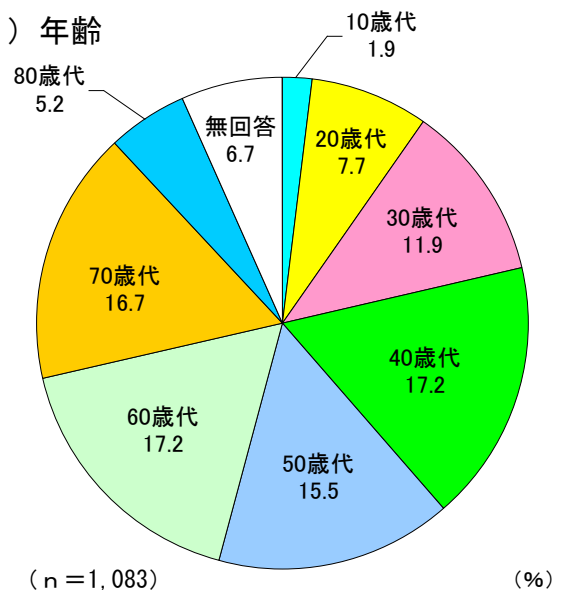
1．回答者の属性

(1) 性別



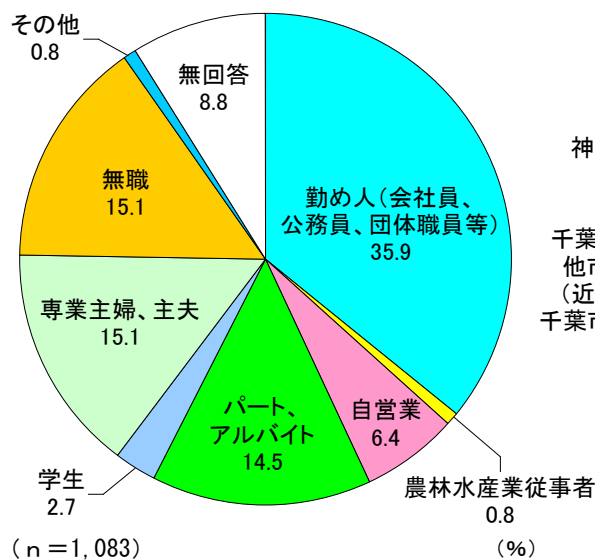
性別は、男性が42.6%、女性が50.5%となっている。

(2) 年齢



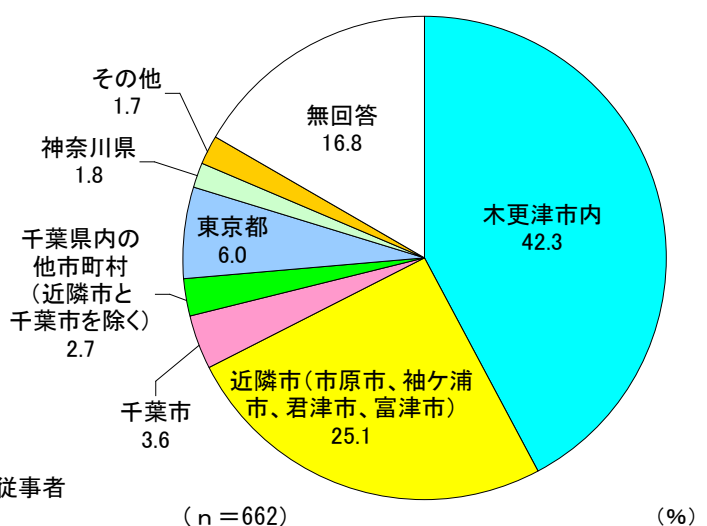
年齢は、40歳代と60歳代がともに17.2%で高く、次いで70歳代が16.7%、50歳代が15.5%、30歳代が11.9%の順となっている。

(3) 職業



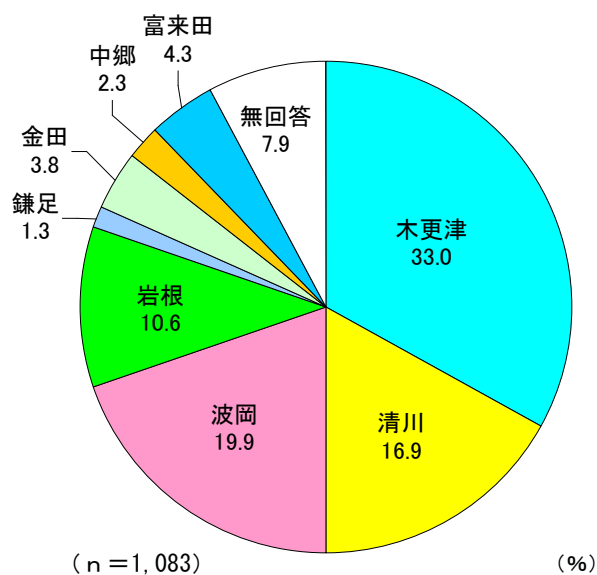
職業は、勤め人（会社員、公務員、団体職員等）が35.9%で最も高く、次いで専業主婦、主夫と無職がともに15.1%、パート、アルバイトが14.5%の順となっている。

(4) 通勤・通学先



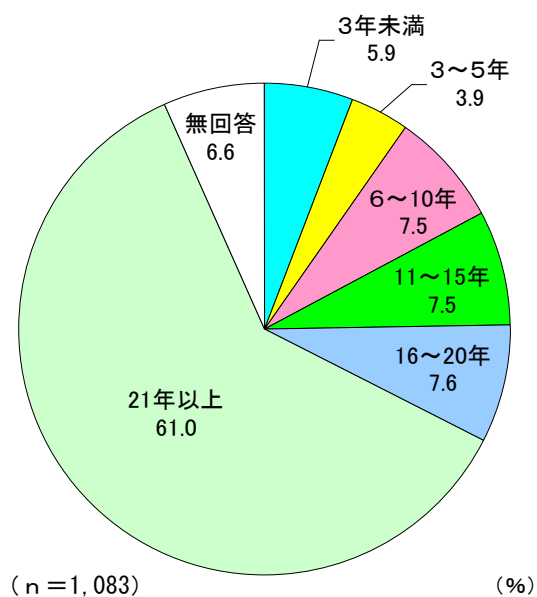
(3) 職業で専業主婦、主夫または無職以外と回答した方の通勤・通学先は、木更津市内が42.3%で最も高く、次いで近隣市（市原市、袖ヶ浦市、君津市、富津市）が25.1%、東京都が6.0%の順となっている。

(5) 居住地区



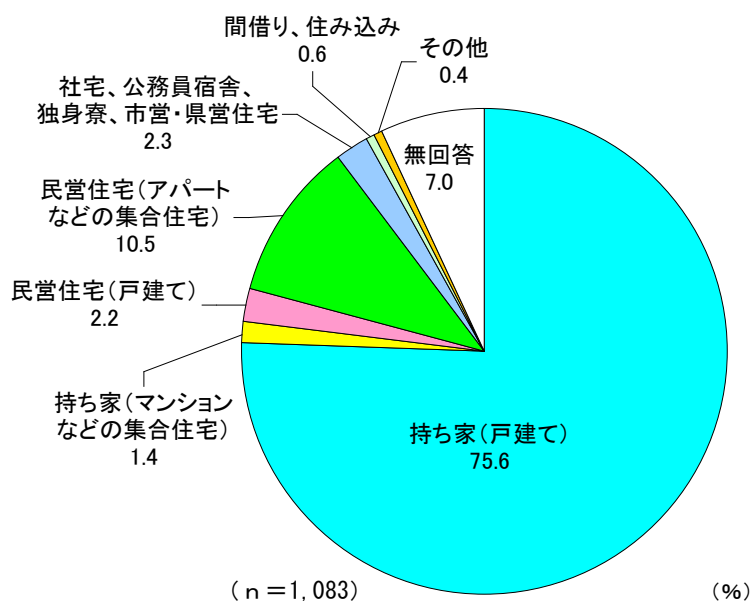
居住地区は、木更津地区が33.0%で最も高く、次いで波岡地区が19.9%、清川地区が16.9%、岩根地区が10.6%の順となっている。

(6) 居住期間



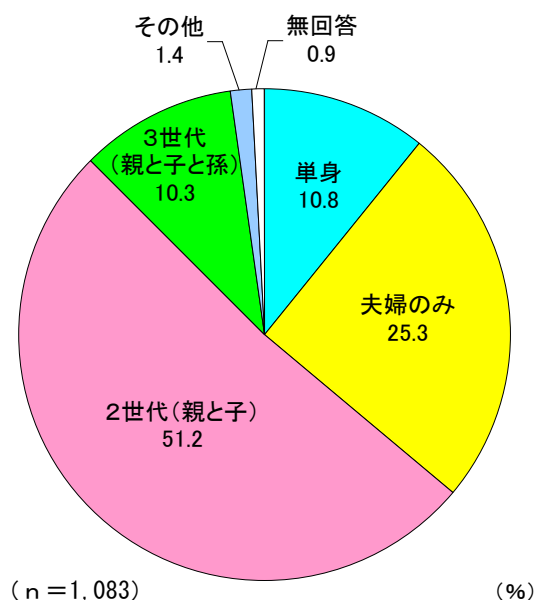
居住期間は、21年以上が61.0%で最も高く、次いで16~20年が7.6%、6~10年と11~15年がともに7.5%、3年未満が5.9%の順となっている。

(7) 居住形態



居住形態は、持ち家(戸建て)が75.6%で最も高く、次いで民営住宅(アパートなどの集合住宅)が10.5%の順となっている。

(8) 家族構成

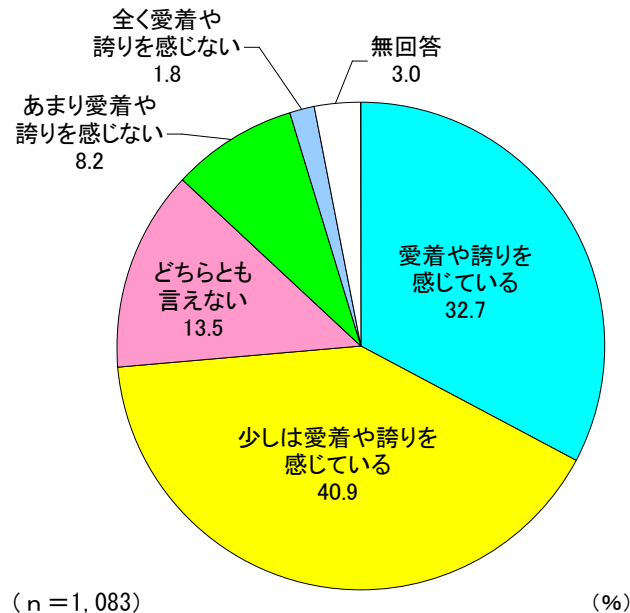


家族構成は、2世代(親と子)が51.2%で最も高く、次いで夫婦のみが25.3%、単身が10.8%、3世代(親と子と孫)が10.3%の順となっている。

2. 木更津市へのイメージについて

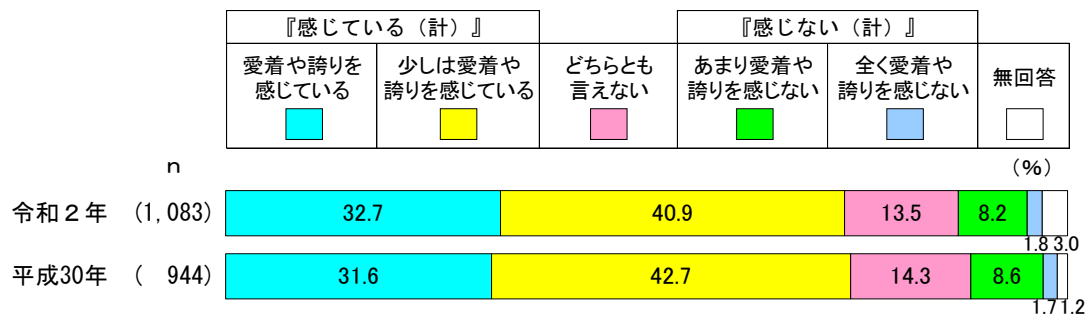
(1) 木更津市への愛着や誇り

問1. あなたは、木更津市に愛着や誇りを感じていますか。(○は1つだけ)

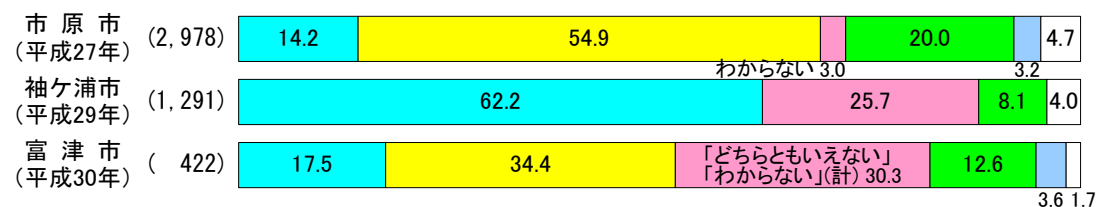


木更津市への愛着や誇りについては、「愛着や誇りを感じている」(32.7%)と「少しは愛着や誇りを感じている」(40.9%)を合わせた『感じている(計)』が73.6%と高くなっている。「どちらとも言えない」は13.5%で、「あまり愛着や誇りを感じない」(8.2%)と「全く愛着や誇りを感じない」(1.8%)を合わせた『感じない(計)』は10.0%となっている。

[平成30年調査との比較、他の自治体調査との比較]



【他の自治体調査】

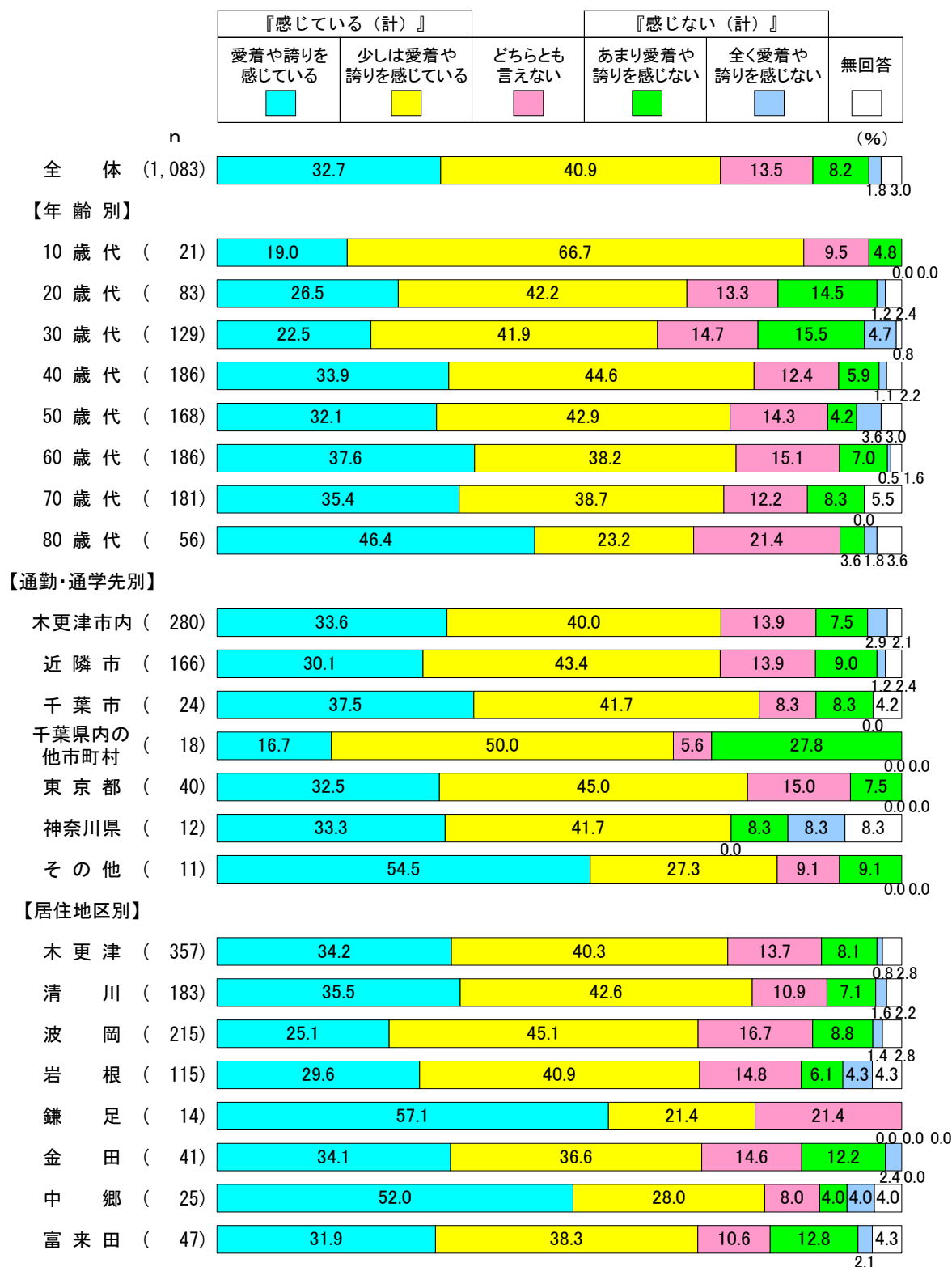


(※) 袖ヶ浦市の調査では、「少しは愛着や誇りを感じている」と「全く愛着や誇りを感じない」に相当する選択肢は示されていない。

平成30年調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

他の自治体調査との比較は、選択肢が異なるため参考にとどまるが、『感じている(計)』(73.6%)は市原市(69.1%)、袖ヶ浦市(62.2%)、富津市(51.9%)と比べて高くなっている。

[年齢別、通勤・通学先別、居住地区別]

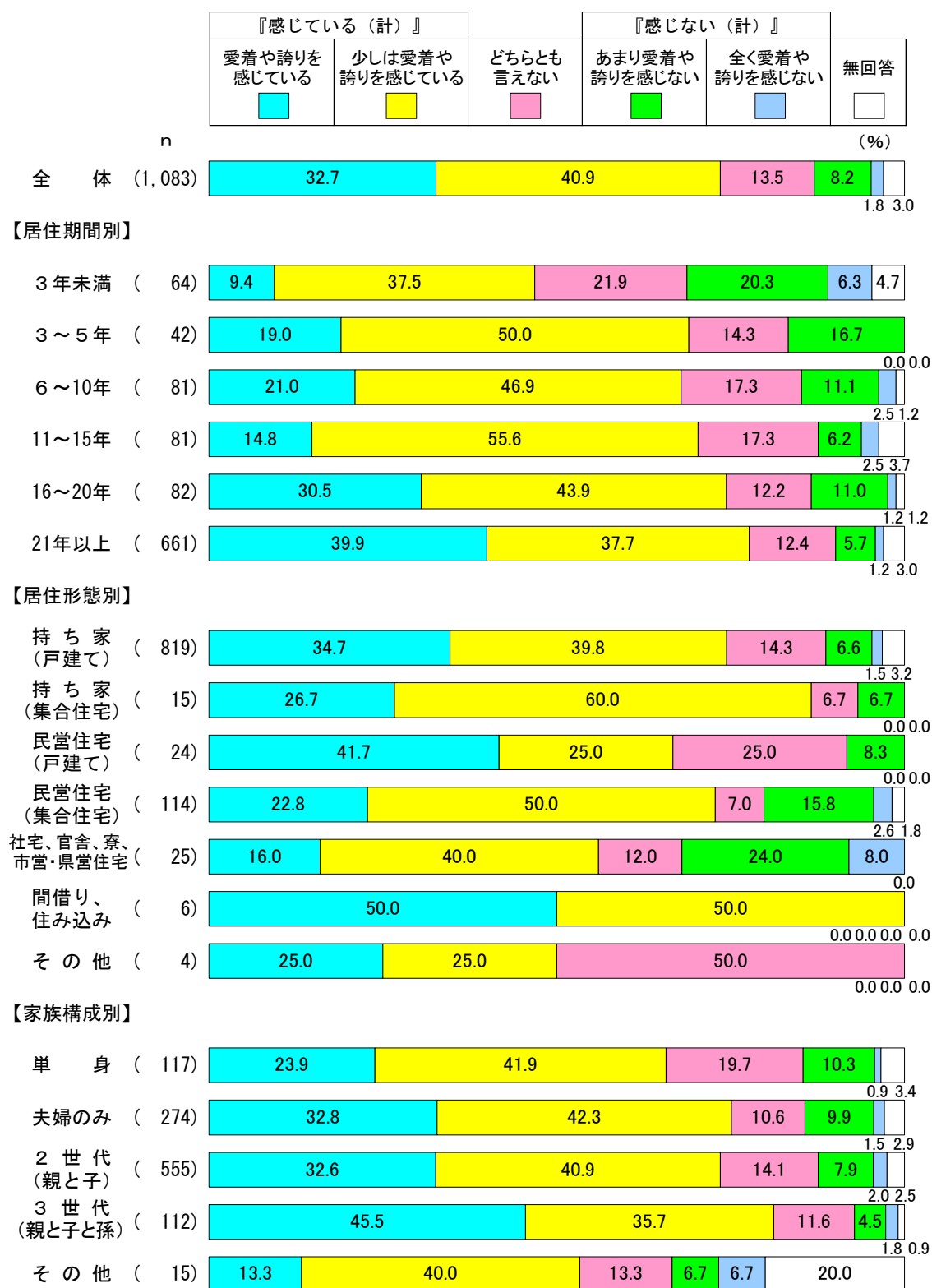


年齢別でみると、「愛着や誇りを感じている」は80歳代が46.4%と高くなっている。『感じない（計）』は30歳代が20.2%と高くなっている。

通勤・通学先別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

居住地区別でみると、『感じている（計）』は清川地区が78.1%と高くなっている。

[居住期間別、居住形態別、家族構成別]



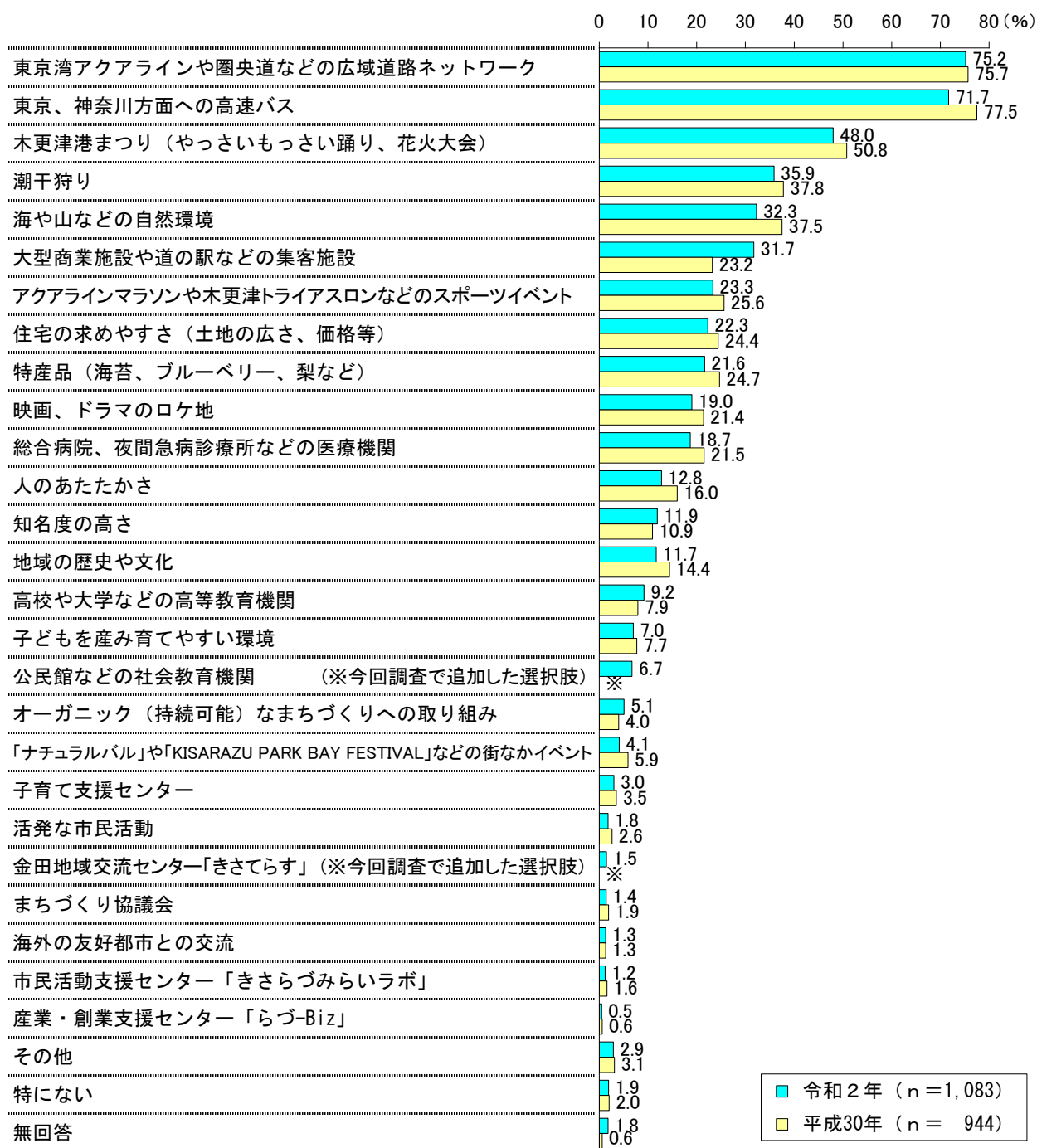
居住期間別でみると、『感じている（計）』は21年以上が77.6%と高くなっている。『感じない（計）』は3年未満が26.6%と高くなっている。

居住形態別でみると、『感じない（計）』は民営住宅（集合住宅）が18.4%となっている。

家族構成別でみると、「愛着や誇りを感じている」は3世代（親と子と孫）が45.5%と高くなっている。

(2) 木更津市の魅力

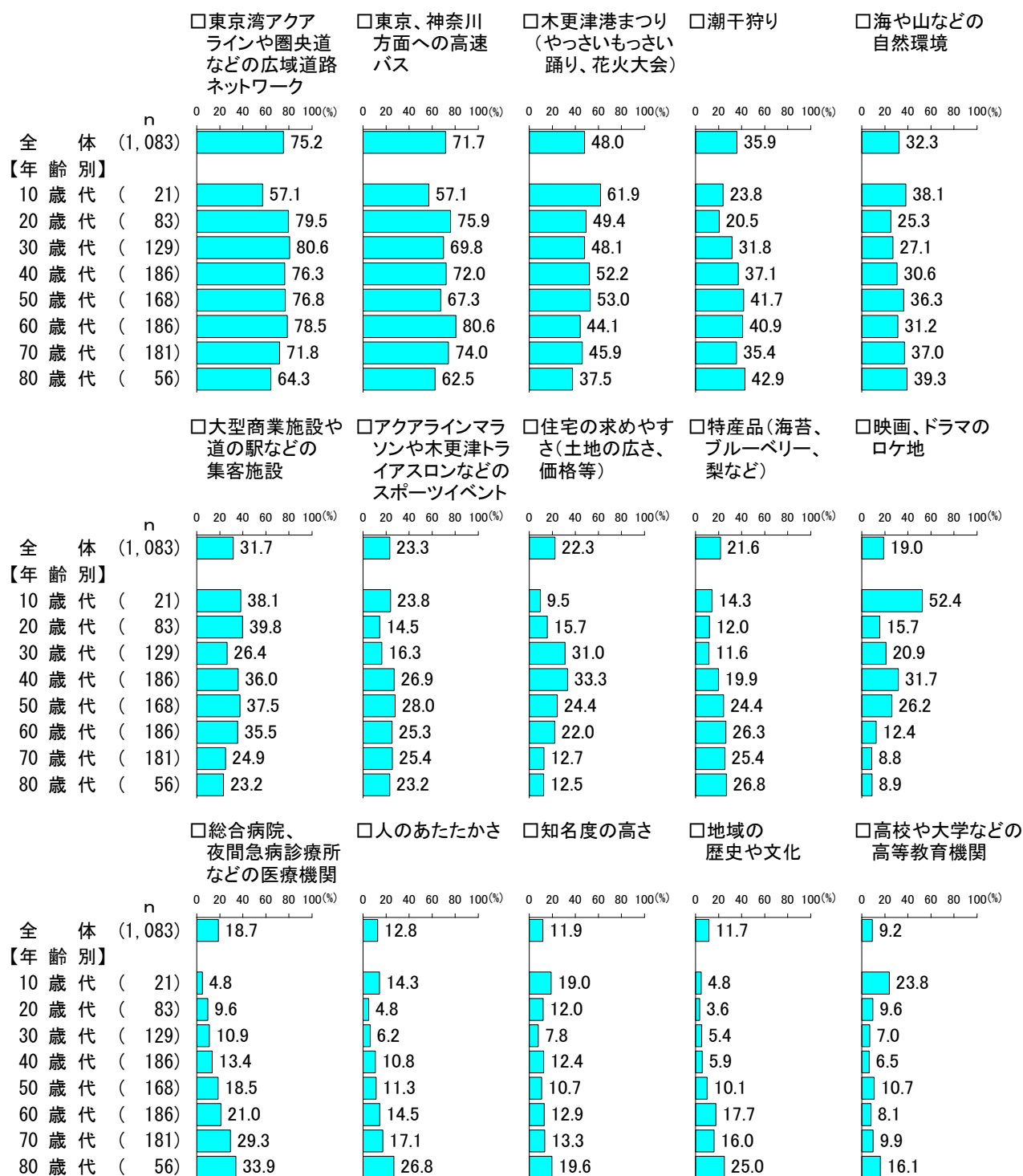
問2. あなたが感じている木更津市の魅力は何ですか。(当てはまるものすべてに○)



木更津市の魅力については、「東京湾アクアラインや圏央道などの広域道路ネットワーク」が75.2%で最も高く、次いで「東京、神奈川方面への高速バス」（71.7%）、「木更津港まつり（やさいもっさい踊り、花火大会）」（48.0%）、「潮干狩り」（35.9%）、「海や山などの自然環境」（32.3%）の順となっている。

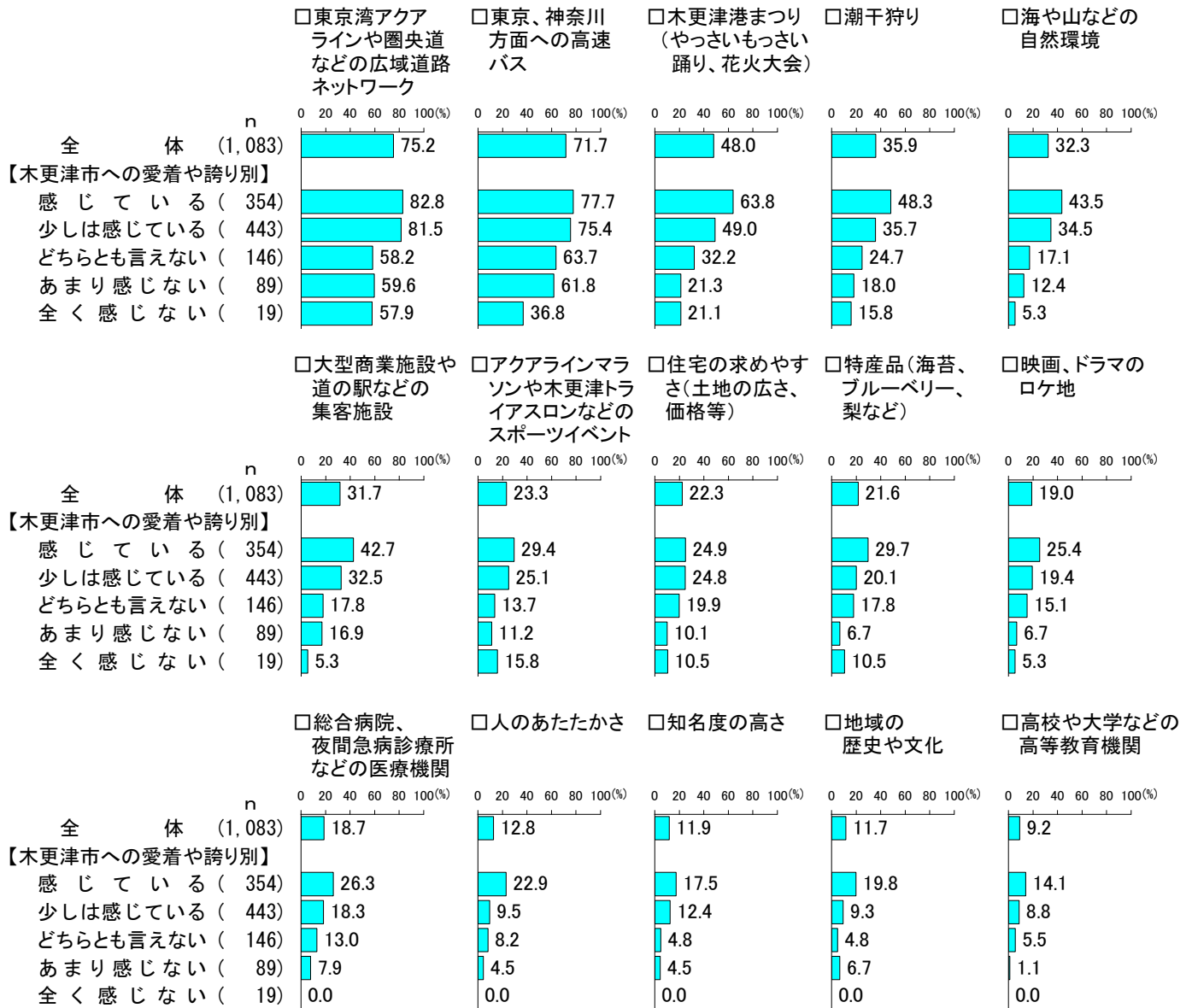
平成30年調査との比較は、一部の選択肢が追加されているため参考にとどまるが、「大型商業施設や道の駅などの集客施設」が8.5ポイント増加している。一方、「東京、神奈川方面への高速バス」が5.8ポイント、「海や山などの自然環境」が5.2ポイント、それぞれ減少している。

〔年齢別〕（上位15項目）



年齢別でみると、「東京、神奈川方面への高速バス」は60歳代が80.6%と高くなっている。「大型商業施設や道の駅などの集客施設」は20歳代が39.8%と高くなっている。「住宅の求めやすさ（土地の広さ、価格等）」は40歳代が33.3%、30歳代が31.0%と高くなっている。「映画、ドラマのロケ地」は40歳代が31.7%と高くなっている。「総合病院、夜間急病診療所などの医療機関」は80歳代が33.0%、70歳代が29.3%と高くなっている。「人のあたたかさ」は80歳代が26.8%と高くなっている。「地域の歴史や文化」は80歳代が25.0%と高くなっている。

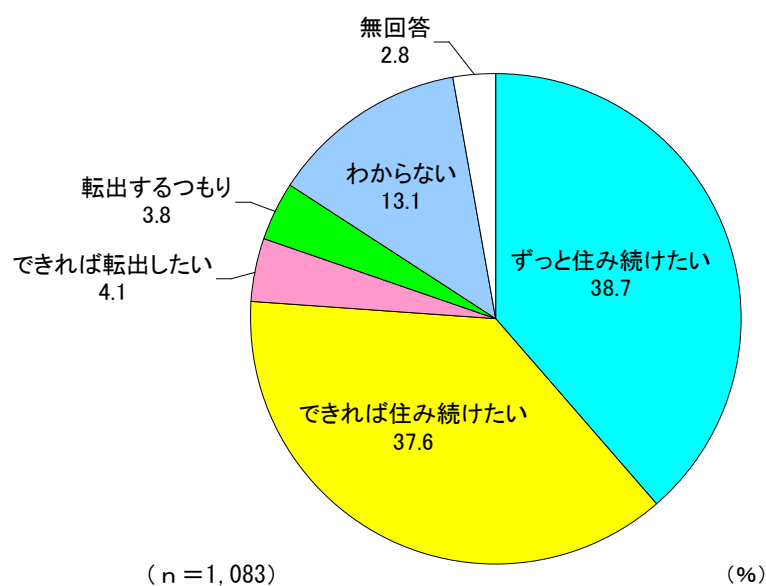
【木更津市への愛着や誇り別】（上位15項目）



木更津市への愛着や誇り（問1）別でみると、すべての項目で、木更津市への愛着や誇りを「感じている」方の割合が最も高くなっている。

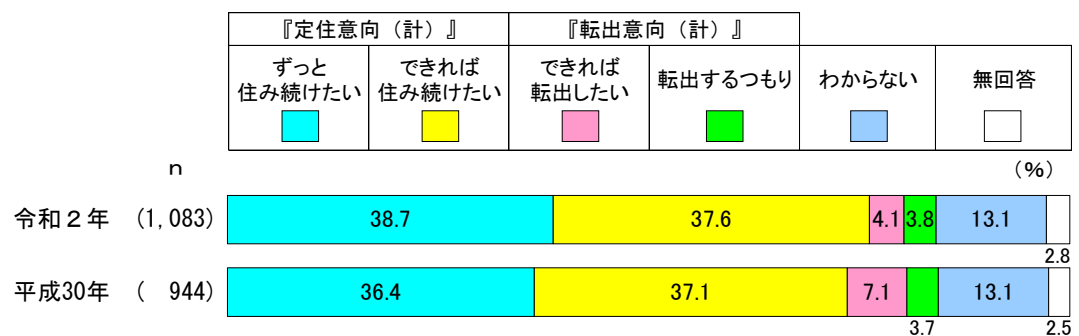
(3) 定住意向

問3. あなたは、これからも木更津市に住みたいと考えていますか。(○は1つだけ)

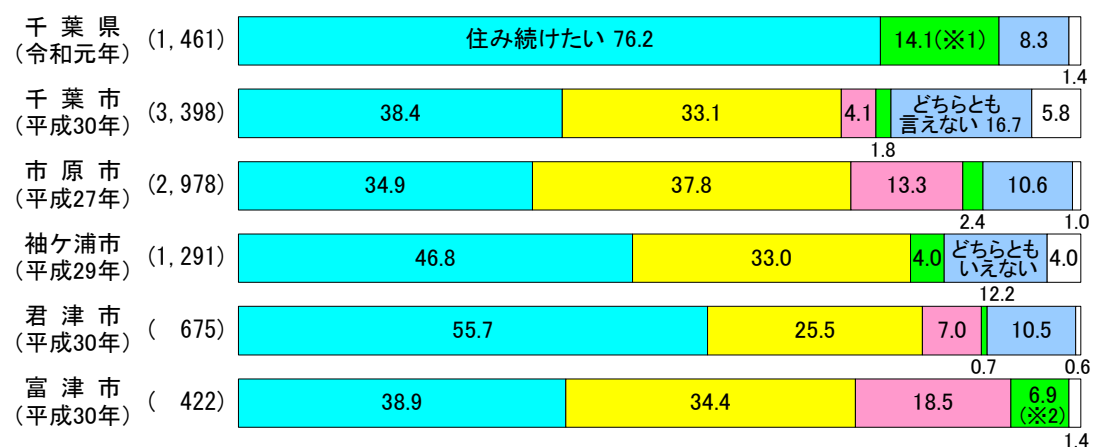


定住意向については、「ずっと住みたい」(38.7%)と「できれば住みたい」(37.6%)を合わせた『定住意向(計)』が76.3%と高くなっている。「できれば転出したい」(4.1%)と「転出するつもり」(3.8%)を合わせた『転出意向(計)』は7.9%となっている。

[平成30年調査との比較、他の自治体調査との比較]



【他の自治体調査】

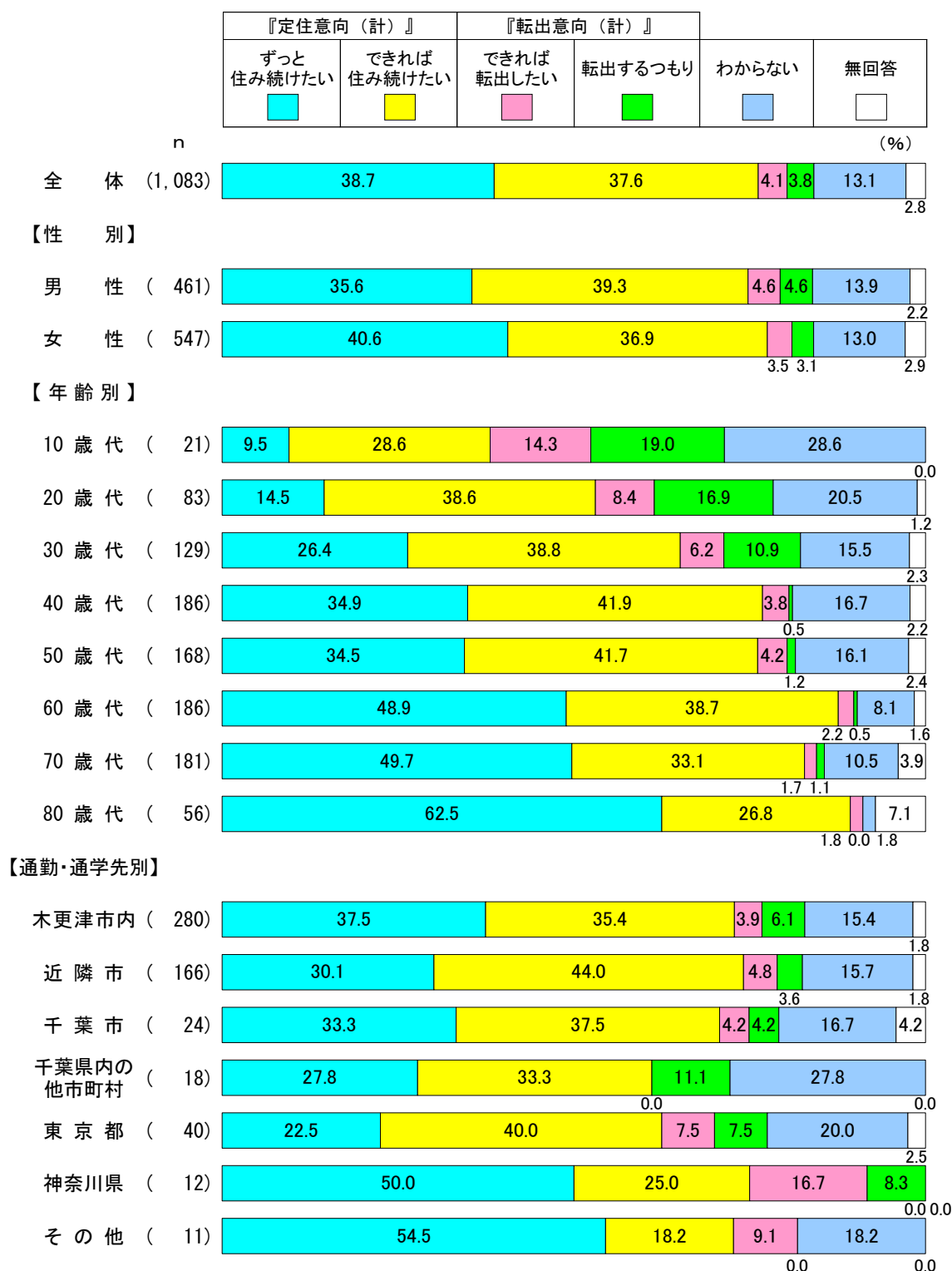


- (※1) 「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内・県外どちらでもかまわないが移りたい」の合計。また千葉県の調査では、「できれば住み続けたい」と「できれば転出したい」に相当する選択肢は示されていない。
- (※2) 「すぐにでも移りたい」と「市内の別の場所に転居したい」の合計。また富津市の調査では、「わからない」に相当する選択肢は示されていない。
- (※3) 袖ヶ浦市の調査では、「できれば転出したい」に相当する選択肢は示されていない。

平成30年調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

他の自治体調査との比較は、選択肢が異なるため参考にとどまるが、『定住意向（計）』（76.3%）は千葉県（76.2%）とほぼ同じ割合であり、また千葉市（71.5%）、市原市（72.7%）、袖ヶ浦市（79.8%）、富津市（73.3%）と同様に7割台となっている。

[性別、年齢別、通勤・通学先別]

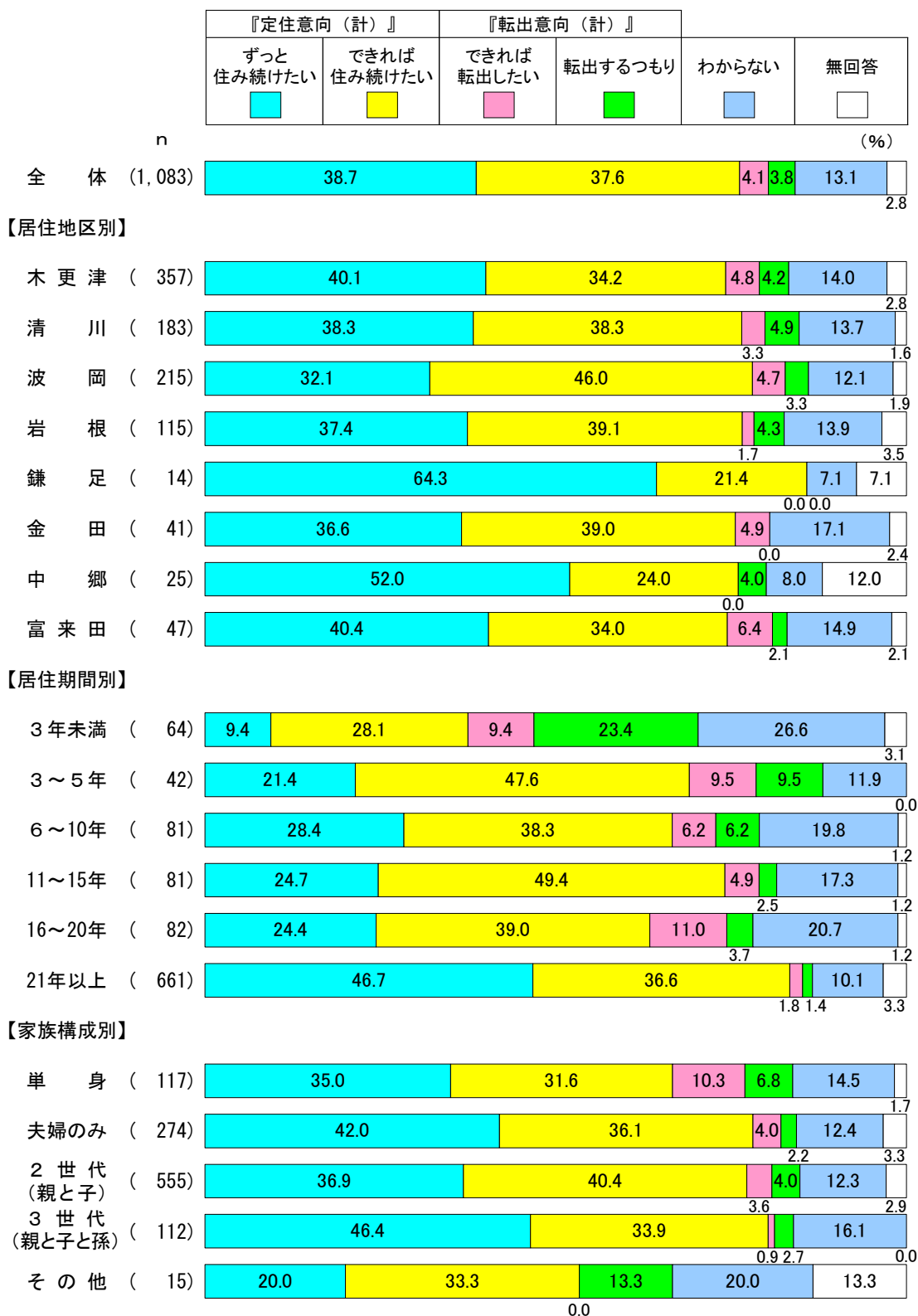


性別でみると、「ずっと住み続けたい」は女性（40.6％）が男性（35.6％）より5.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『定住意向（計）』は80歳代が89.3％、60歳代が87.6％、70歳代が82.8％と高くなっている。『転出意向（計）』は20歳代が25.3％、30歳代が17.1％と高くなっている。

通勤・通学先別でみると、『定住意向（計）』は東京都へ通勤・通学している方で62.5％となっており、木更津市内（72.9％）や近隣市（74.1％）に比べて低くなっている。

[居住地区別、居住期間別、家族構成別]



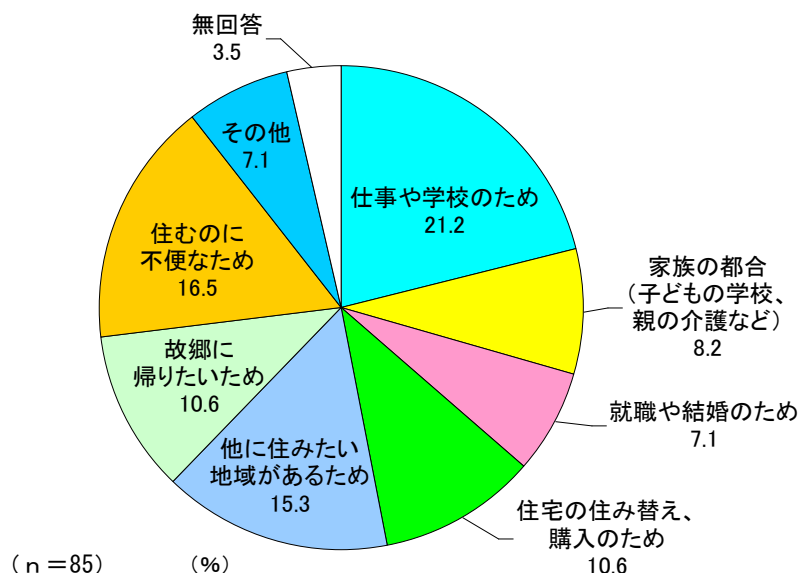
居住地区別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

居住期間別でみると、『定住意向（計）』は21年以上が83.3%と高くなっている。『転出意向（計）』は3年未満が32.8%、3～5年が19.0%と高くなっている。

家族構成別でみると、『転出意向（計）』は単身が17.1%となっている。

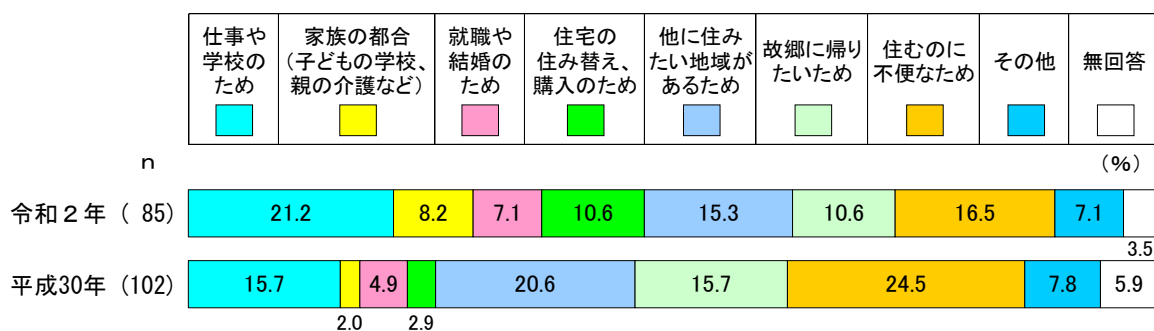
(4) 転出したい理由

問4. 問3で、「できれば転出したい」、「転出するつもり」を選んだ方に、うかがいます。
転出したい理由にもっとも近いのはどれですか。(〇は1つだけ)



転出したい理由については、「仕事や学校のため」が21.2%で最も高く、次いで「住むのに不便なため」(16.5%)、「他に住みたい地域があるため」(15.3%)、「住宅の住み替え、購入のため」と「故郷に帰りたいため」(ともに10.6%)の順となっている。

[平成30年調査との比較]



平成30年調査と比較すると、「住宅の住み替え、購入のため」が7.7ポイント、「家族の都合 (子どもの学校、親の介護など)」が6.2ポイント、「仕事や学校のため」が5.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「住むのに不便なため」が8.0ポイント、「他に住みたい地域があるため」が5.3ポイント、「故郷に帰りたいため」が5.1ポイント、それぞれ減少している。

3. 木更津市の取り組みについて

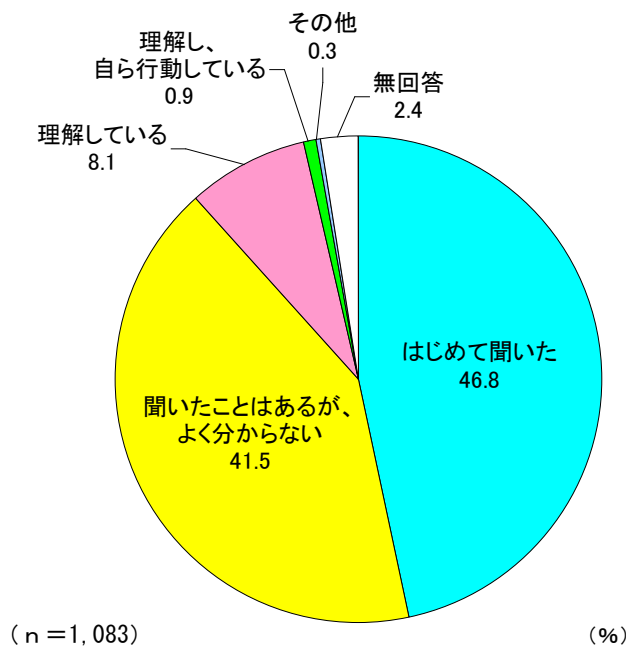
(1)「オーガニックなまちづくり」の認知度

問5. 現在、木更津市は、「オーガニックなまちづくり」を推進しています。

この取り組みについて、あなたはどのくらい知っていますか。(〇は1つだけ)

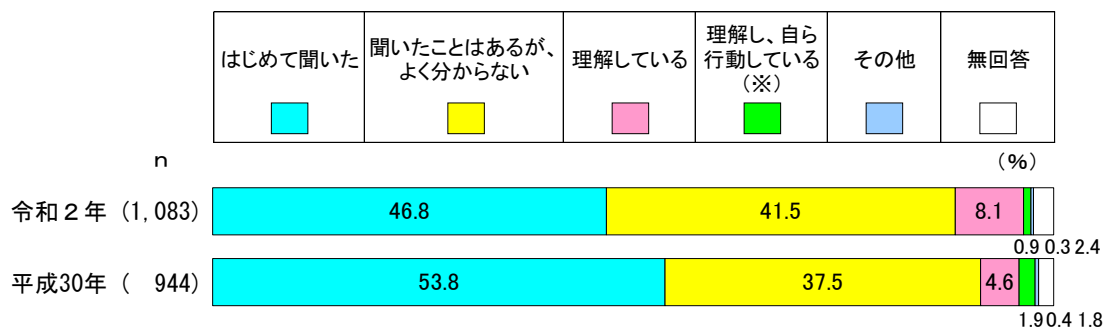
(オーガニックなまちづくりとは?)

地域一体となり、人と自然が調和した持続可能なまちとして、次世代につないでいく取り組みのことです。



「オーガニックなまちづくり」の認知度については、「理解し、自ら行動している」が0.9%、「理解している」が8.1%となっている。「はじめて聞いた」は46.8%で、「聞いたことはあるが、よく分からない」は41.5%となっている。

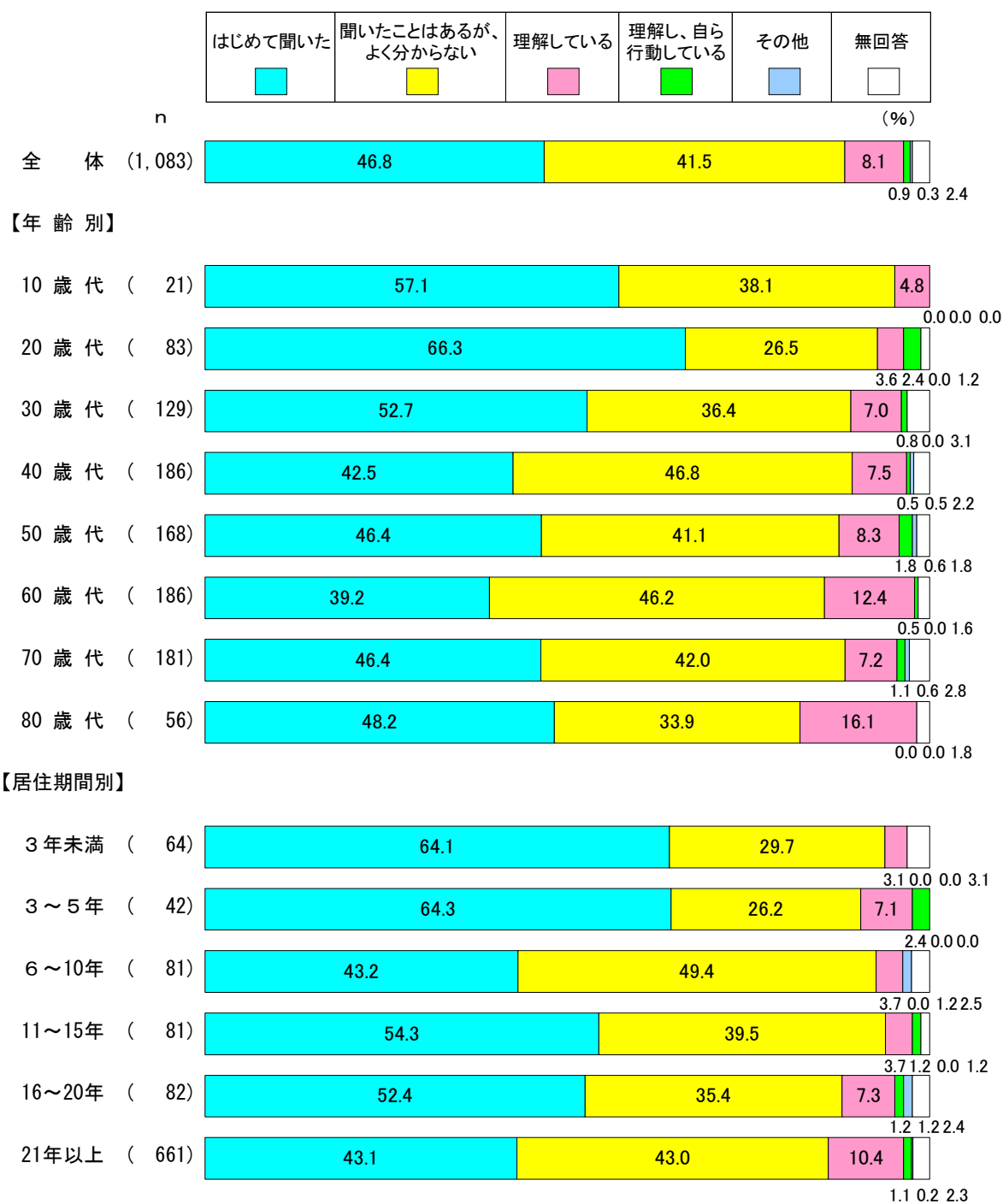
[平成30年調査との比較]



(※)「理解し、自ら行動している」は、平成30年調査では「理解し、共感している」としていた。

平成30年調査との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、「聞いたことはあるが、よく分からない」が4.0ポイント、「理解している」が3.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「はじめて聞いた」が7.0ポイント減少している。

[年齢別、居住期間別]

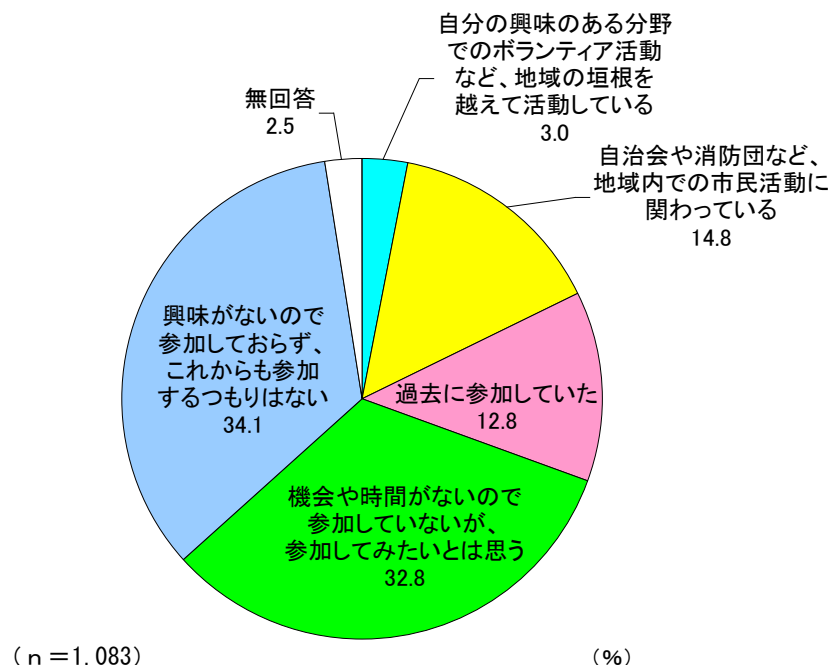


年齢別でみると、「はじめて聞いた」は20歳代が66.3%と高くなっている。「理解している」は80歳代が16.1%となっている。

居住期間別でみると、「はじめて聞いた」は3～5年が64.3%、3年未満が64.1%と高くなっている。「理解している」は21年以上が10.4%となっている。

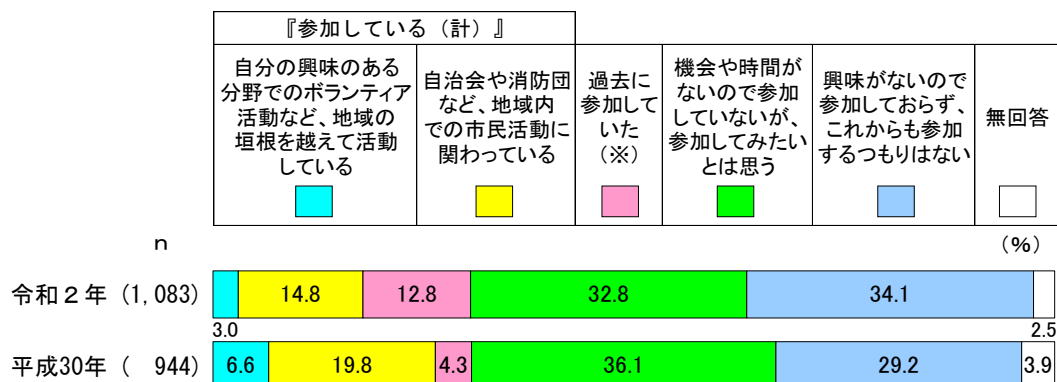
(2) 市民活動の参加状況

問6. 現在、木更津市は、「市民活動（ボランティアやNPO活動など）」を推進しています。
あなたの市民活動の参加状況にもっとも近いのはどれですか。（○は1つだけ）



市民活動の参加状況については、「自分の興味のある分野でのボランティア活動など、地域の垣根を越えて活動している」（3.0%）と「自治会や消防団など、地域内での市民活動に関わっている」（14.8%）を合わせた『参加している（計）』が17.8%となっている。「過去に参加していた」は12.8%、「機会や時間がないので参加していないが、参加してみたいと思う」は32.8%で、「興味がないので参加しておらず、これからも参加するつもりはない」は34.1%となっている。

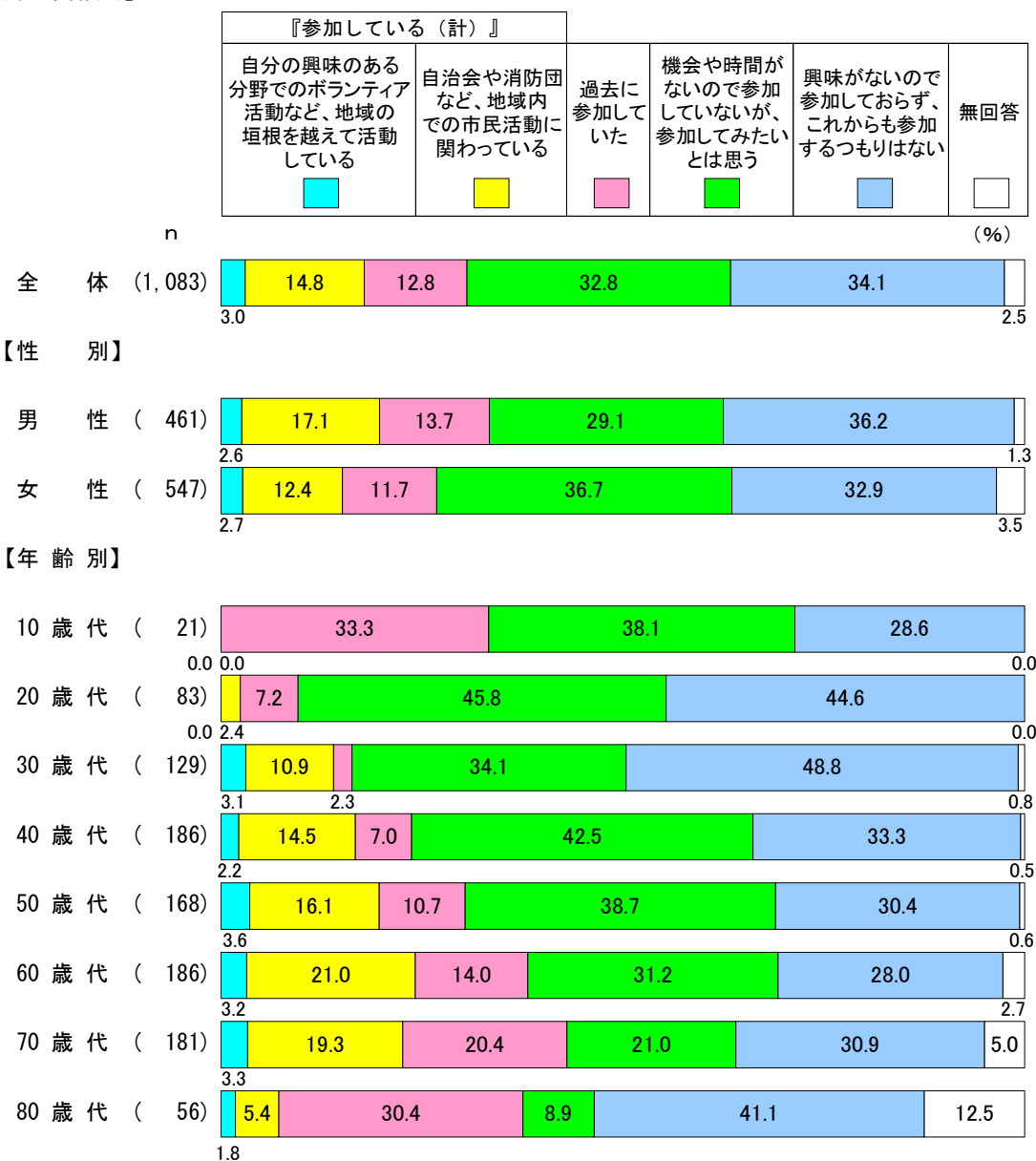
[平成30年調査との比較]



（※）「過去に参加していた」は、平成30年調査では「過去に参加していたが、これからは参加しないつもり」としていた。

平成30年調査との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、『参加している（計）』が8.6ポイント減少している。

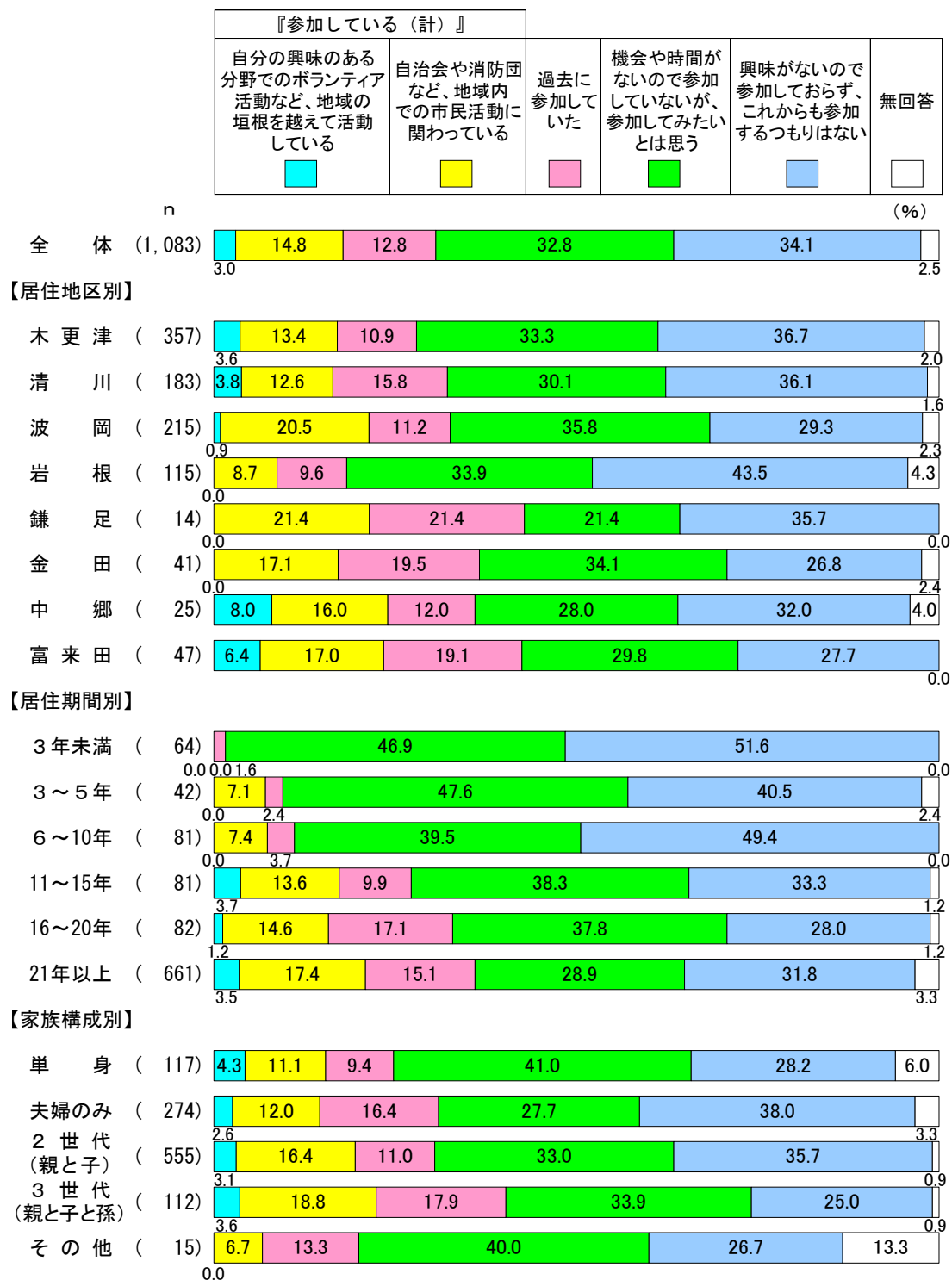
〔性別、年齢別〕



性別でみると、『参加している（計）』は男性（19.7％）が女性（15.1％）より4.6ポイント高くなっている。「機会や時間がないので参加していないが、参加してみたいと思う」は女性（36.7％）が男性（29.1％）より7.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『参加している（計）』は60歳代が24.2％と高くなっている。「過去に参加していた」は80歳代が30.4％、70歳代が20.4％と高くなっている。「機会や時間がないので参加していないが、参加してみたいと思う」は20歳代が45.8％、40歳代が42.5％と高くなっている。「興味がないので参加しておらず、これからも参加するつもりはない」は30歳代が48.8％、20歳代が44.6％と高くなっている。

[居住地区別、居住期間別、家族構成別]



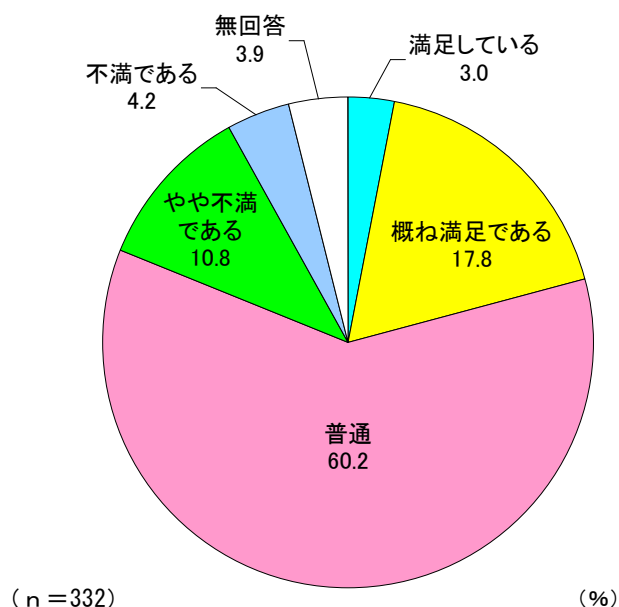
居住地区別でみると、「自治会や消防団など、地域内での市民活動に関わっている」は波岡地区が20.5%と高くなっている。「興味がないので参加しておらず、これからも参加するつもりはない」は岩根地区が43.5%と高くなっている。

居住期間別でみると、『参加している（計）』は21年以上が20.9%と高くなっている。「機会や時間がないので参加していないが、参加してみたいと思う」は3～5年が47.6%、3年未満が46.9%と高くなっている。「興味がないので参加しておらず、これからも参加するつもりはない」は3年未満が51.6%、6～10年が49.4%と高くなっている。

家族構成別でみると、「機会や時間がないので参加していないが、参加してみたいと思う」は単身が41.0%と高くなっている。

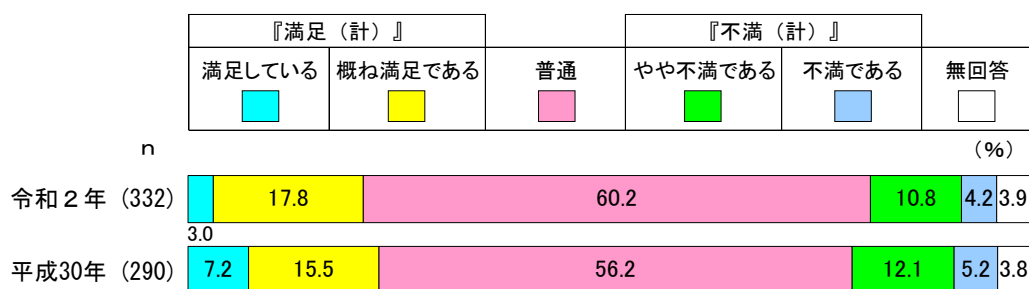
(3) 市民活動に対する市の取り組みの満足度

問7. 問6で、「市民活動に参加している、過去に参加していた」を選んだ方に、お聞きします。
市民活動に対する市の取り組みに満足していますか。(○は1つだけ)



市民活動に対する市の取り組みの満足度については、「満足している」(3.0%)と「概ね満足である」(17.8%)を合わせた『満足(計)』が20.8%となっている。「普通」は60.2%で、「やや不満である」(10.8%)と「不満である」(4.2%)を合わせた『不満(計)』は15.0%となっている。

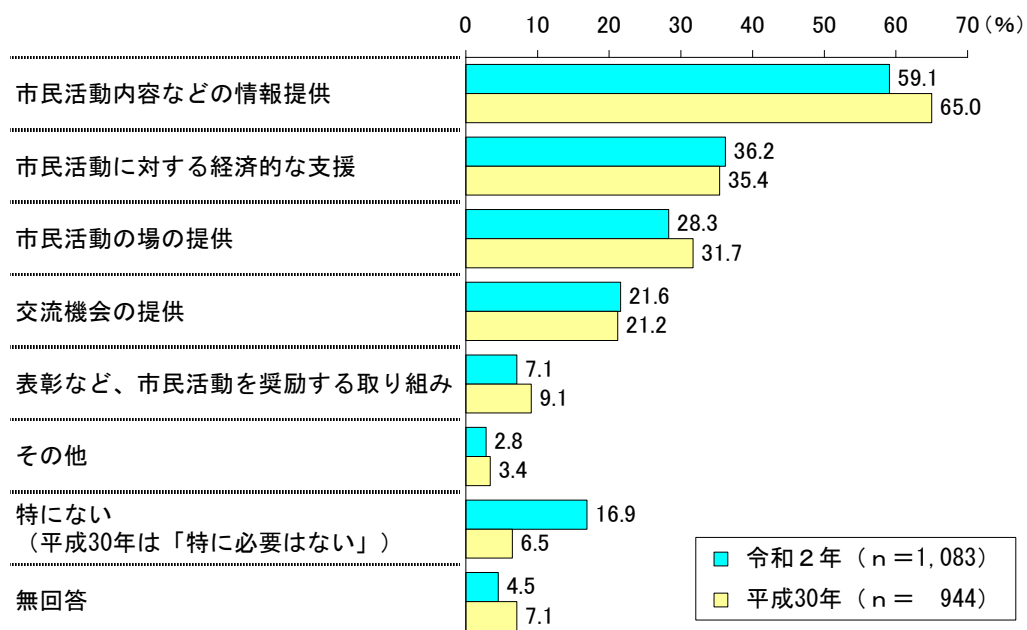
[平成30年調査との比較]



平成30年調査と比較すると、「満足している」が4.2ポイント減少し、「普通」が4.0ポイント増加している。

(4) 市民活動を広めるための市の取り組み

問 8. 市民活動を市民の皆さまに広めるため、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。
(当てはまるものすべてに○)



市民活動を広めるための市の取り組みについては、「市民活動内容などの情報提供」が59.1%で最も高く、次いで「市民活動に対する経済的な支援」(36.2%)、「市民活動の場の提供」(28.3%)、「交流機会の提供」(21.6%)の順となっている。

平成30年調査との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、「市民活動内容などの情報提供」が5.9ポイント減少している。

（５）電子地域通貨「アクアコイン」の利用状況

問 9．木更津市内の加盟店で利用できる、電子地域通貨「アクアコイン」のアプリについて、該当するものを選んでください。（○は１つだけ）

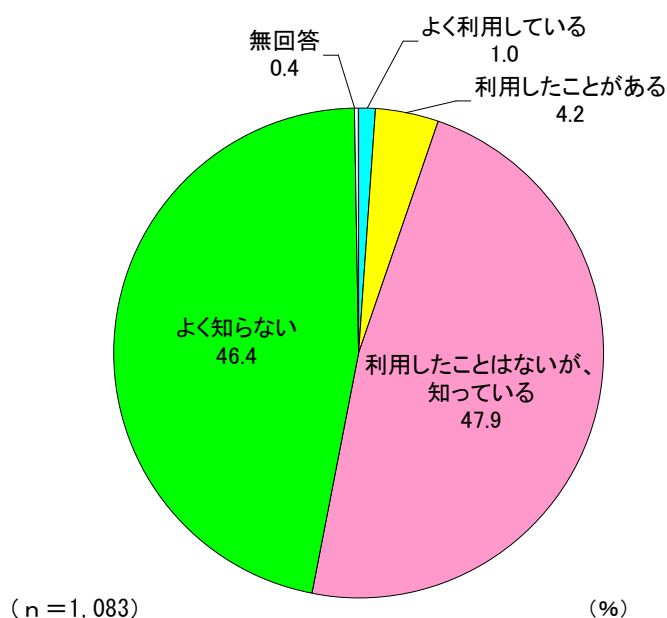


（アクアコインとは？）

君津信用組合・木更津市・木更津商工会議所が連携して普及に取り組む電子地域通貨のことです。

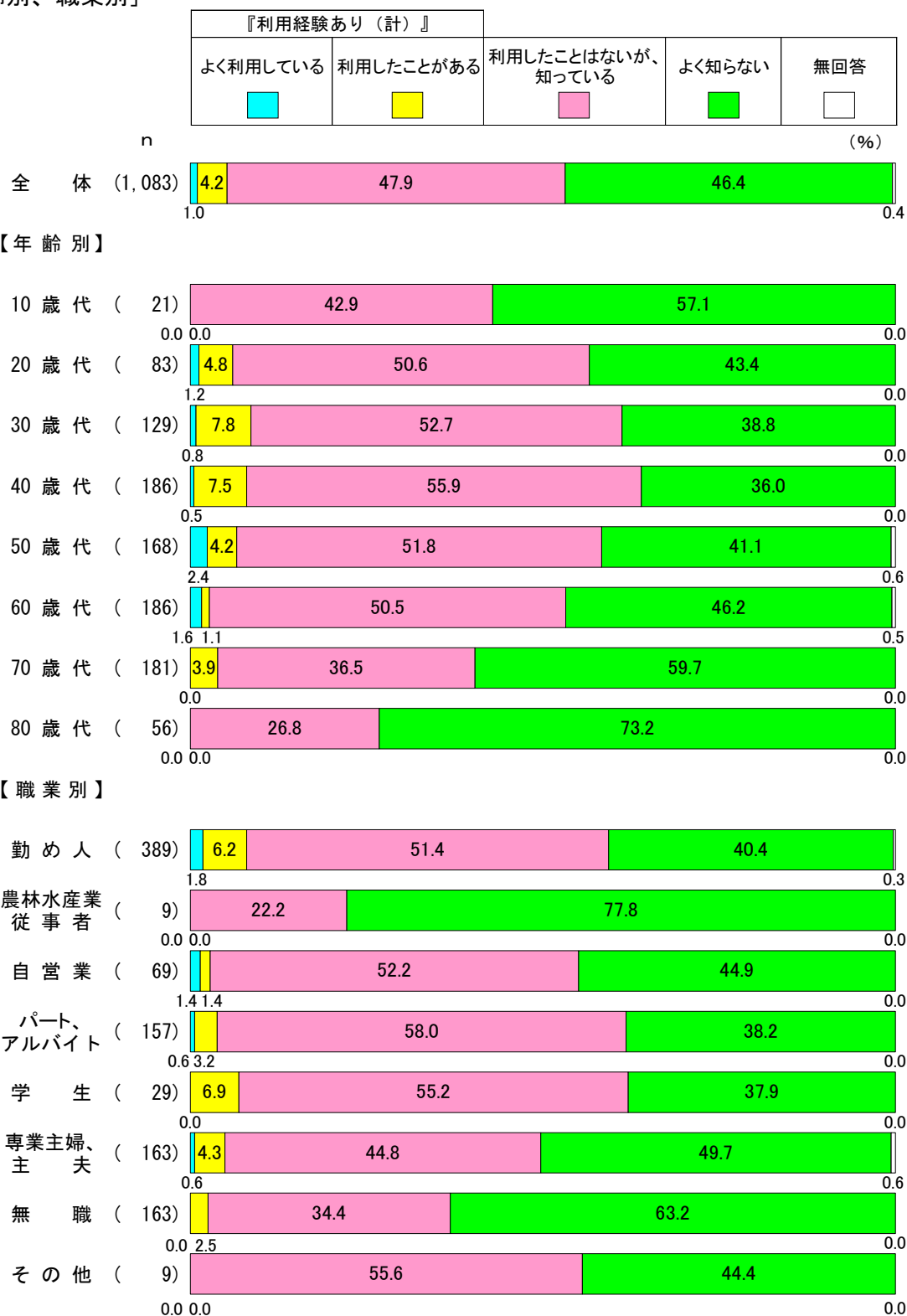
スマートフォンの専用アプリをダウンロードし、１円＝１コインとしてアクアコインをチャージして、木更津市内の加盟店に設置してあるQRコードを読み取り、利用代金をキャッシュレスで決済できます。

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



電子地域通貨「アクアコイン」の利用状況については、「よく利用している」（1.0%）と「利用したことがある」（4.2%）を合わせた『利用経験あり（計）』が5.2%となっている。「利用したことはないが、知っている」は47.9%で、「よく知らない」は46.4%となっている。

[年齢別、職業別]

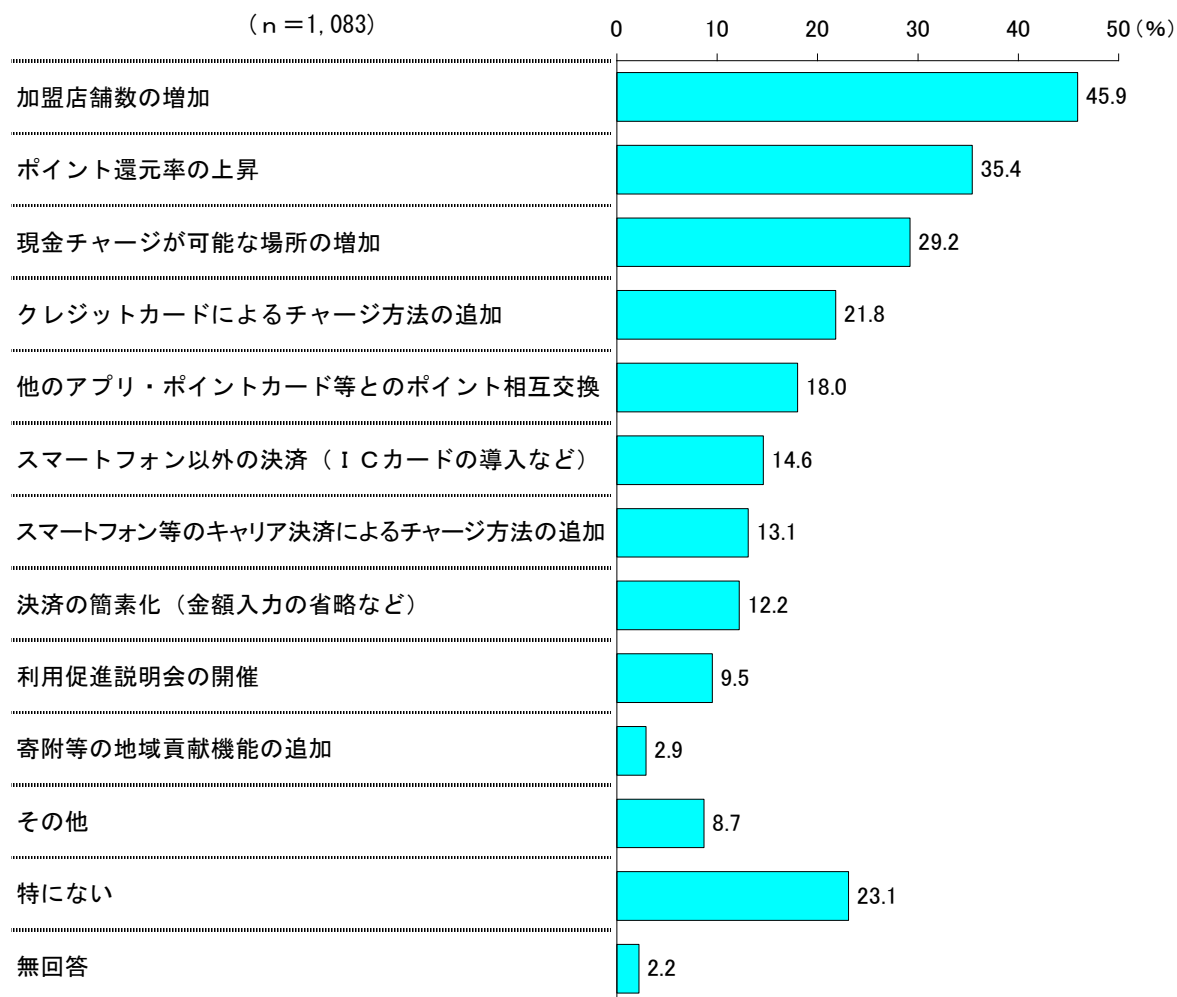


年齢別でみると、『利用経験あり（計）』は30歳代が8.6%、40歳代が8.0%となっている。「利用したことはないが、知っている」は40歳代が55.9%と高くなっている。「よく知らない」は80歳代が73.2%、70歳代が59.7%と高くなっている。

職業別でみると、『利用経験あり（計）』は勤め人が8.0%となっている。「利用したことはないが、知っている」はパート、アルバイトが58.0%と高くなっている。「よく知らない」は無職が63.2%と高くなっている。

（６）電子地域通貨「アクアコイン」の利用促進のための取り組み

問10. アクアコイン利用促進のためには、今後どのような改善が必要だと思いますか。
又はどうしたら利用したいと思いますか。（当てはまるものすべてに○）



電子地域通貨「アクアコイン」の利用促進のための取り組みについては、「加盟店舗数の増加」が45.9%で最も高く、次いで「ポイント還元率の上昇」（35.4%）、「現金チャージが可能な場所の増加」（29.2%）、「クレジットカードによるチャージ方法の追加」（21.8%）、「他のアプリ・ポイントカード等とのポイント相互交換」（18.0%）の順となっている。

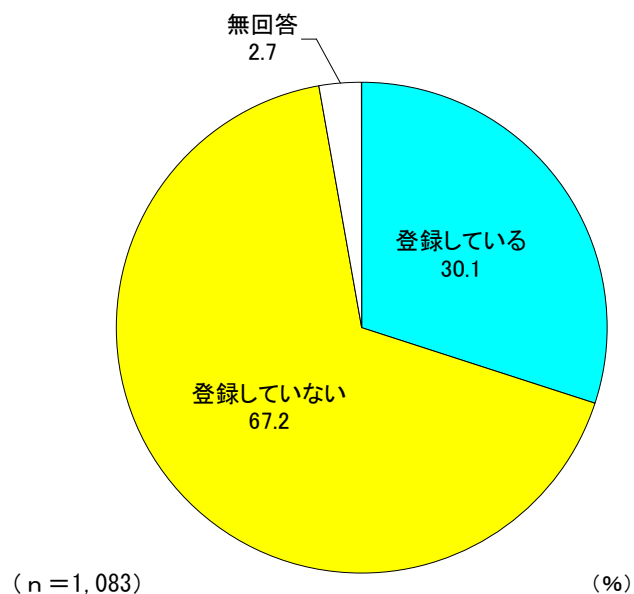
(7)「きさらづ安心・安全メール」の登録状況

問11. 木更津市では、安心して安全に暮らせるまちづくりをめざして、「きさらづ安心・安全メール」を配信していますが、あなたは「きさらづ安心・安全メール」を登録していますか。

(○は1つだけ)

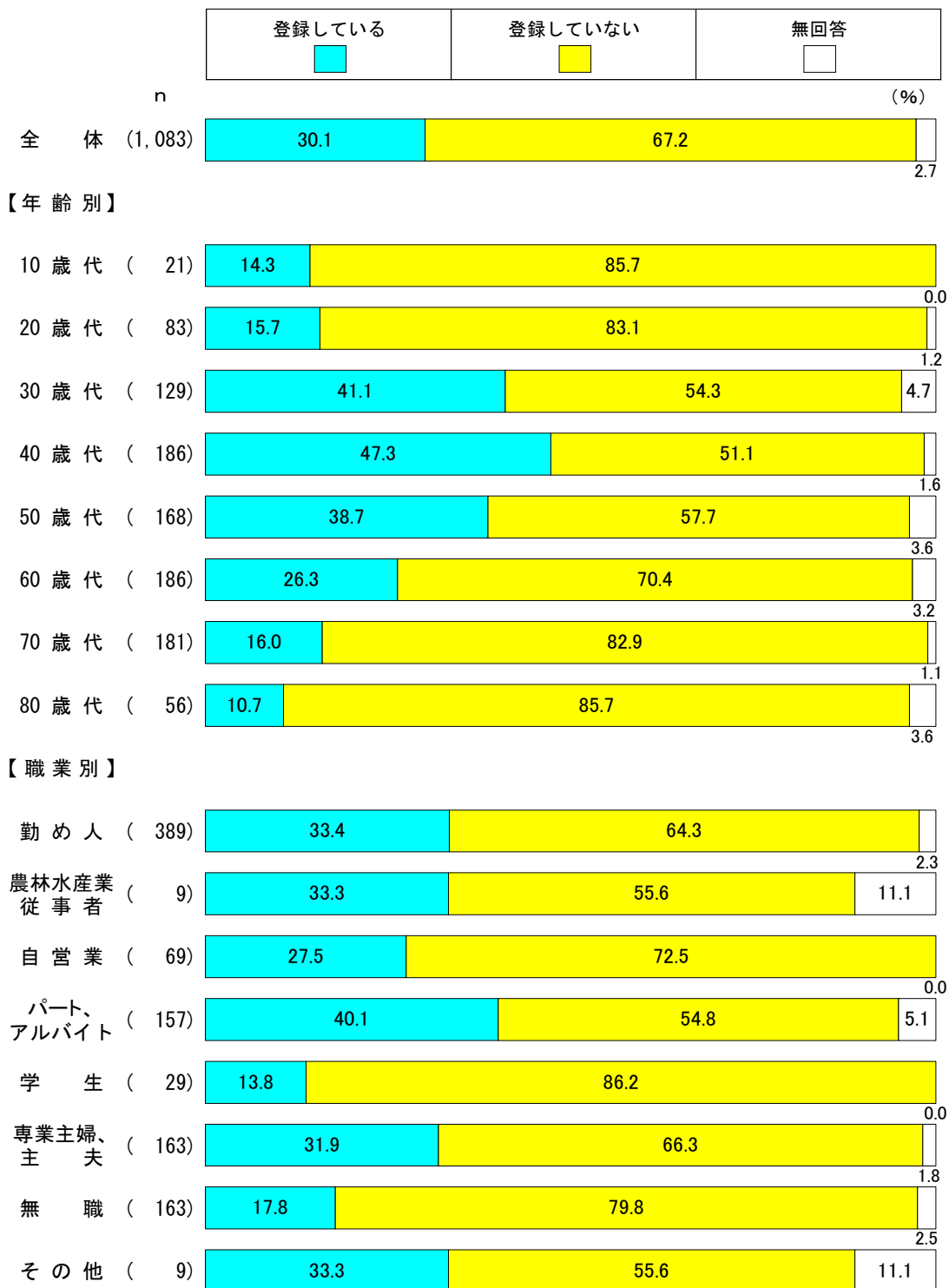
(きさらづ安心・安全メールとは?)

携帯電話、スマートフォン、PHS、パソコンで登録されたメールアドレスあてに、防災情報、火災情報、不審者情報、防犯情報、生活安心情報など緊急性の高い情報を配信しています。



「きさらづ安心・安全メール」の登録状況については、「登録している」が30.1%、「登録していない」は67.2%となっている。

[年齢別、職業別]

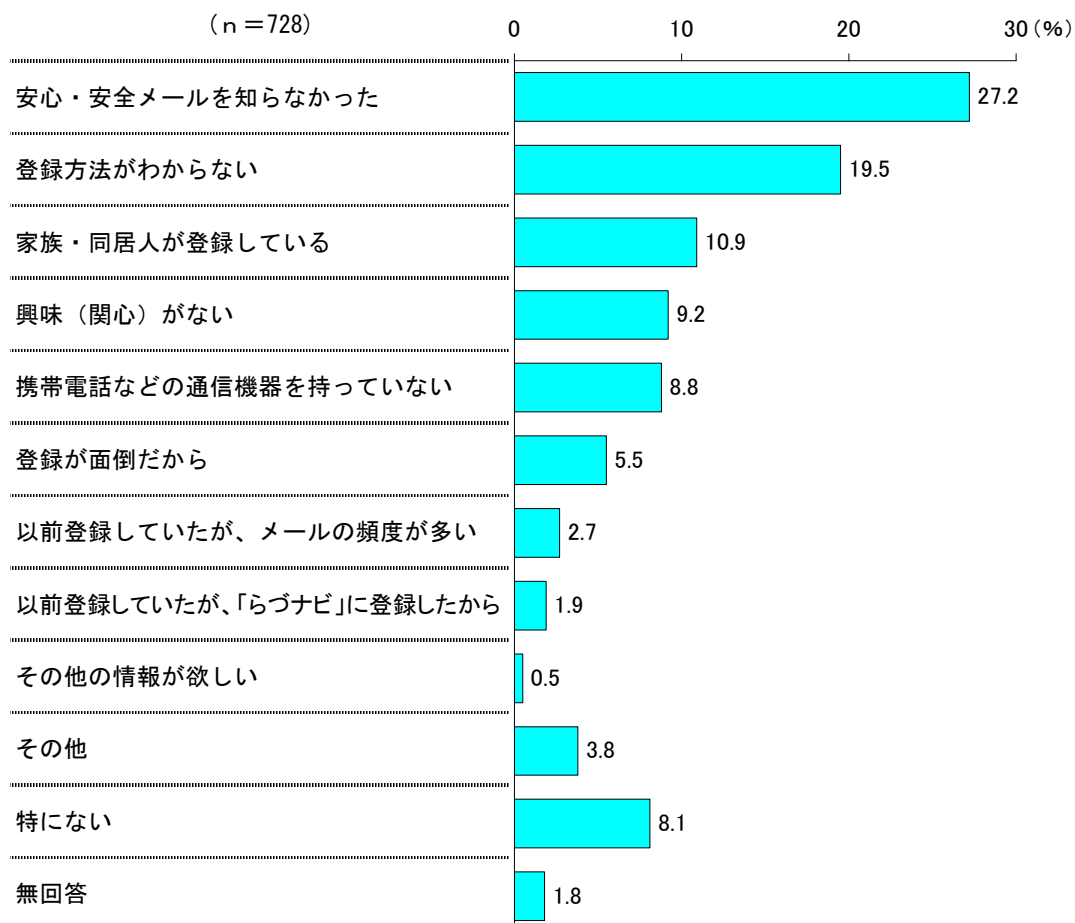


年齢別でみると、「登録している」は40歳代が47.3%、30歳代が41.1%、50歳代が38.7%と高くなっている。「登録していない」は80歳代が85.7%、20歳代が83.1%、70歳代が82.9%と高くなっている。

職業別でみると、「登録している」はパート、アルバイトが40.1%と高くなっている。「登録していない」は無職が79.8%と高くなっている。

(8)「きさらづ安心・安全メール」に登録していない理由

問12. 問11で、「登録していない」を選んだ方に、お聞きします。
登録していない理由にもっとも近いのはどれですか。(〇は1つだけ)



「きさらづ安心・安全メール」に登録していない理由については、「安心・安全メールを知らなかった」が27.2%で最も高く、次いで「登録方法がわからない」（19.5%）、「家族・同居人が登録している」（10.9%）、「興味（関心）がない」（9.2%）、「携帯電話などの通信機器を持っていない」（8.8%）の順となっている。

4. 行政サービスに関する満足度、今後の優先度について

(1) 行政サービスに関する現在の満足度と今後の優先度

問13. あなたは、木更津市の行政サービスに対して、どのくらい満足していますか。また、今後どのくらい優先的に取り組んでほしいと思いますか。以下の1～48の各項目について、「現在の満足度」と「今後の優先度」を選んでください。(○は1つずつ)

木更津市の行政サービス48項目に関する現在の満足度については、「満足」と「概ね満足」を合わせた『満足(計)』は「1 保健の充実」が37.8%で最も高く、次いで「2 医療の充実」(31.9%)、「15スポーツ・レクリエーションの充実」(29.8%)、「33交通体系の充実」(27.4%)、「35上水道の充実」(25.6%)の順となっている。

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満(計)』は「9 交通安全対策の充実」が27.8%で最も高く、次いで「30公園・緑地の充実」(26.5%)、「28土地利用の適正化」(25.1%)、「6 防災対策の推進」(21.3%)、「31住環境の整備」(21.0%)の順となっている。

木更津市の行政サービス48項目に関する今後の優先度については、「高い」と「やや高い」を合わせた『高い(計)』は「6 防災対策の推進」が63.3%で最も高く、次いで「2 医療の充実」(60.2%)、「9 交通安全対策の充実」(53.4%)、「8 防犯体制の充実」(50.7%)、「33交通体系の充実」(50.1%)の順となっている。

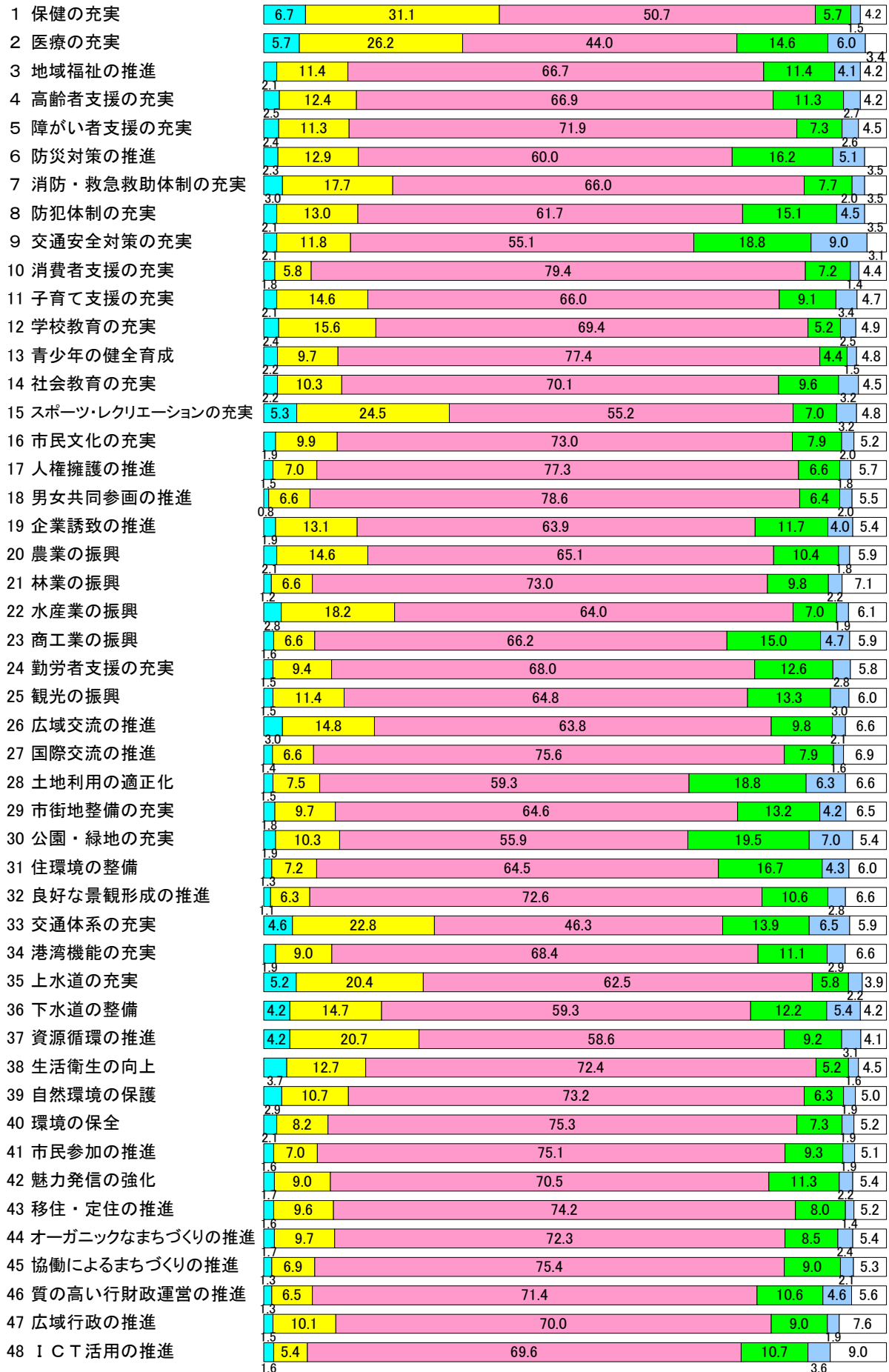
一方、「やや低い」と「低い」を合わせた『低い(計)』は「27国際交流の推進」(12.4%)と「16 市民文化の充実」(10.8%)の2項目が1割台となっており、それ以外の46項目は1割未満となっている。

現在の満足度

(n=1,083)

『満足(計)』			『不満(計)』		
満足	概ね満足	普通	やや不満	不満	無回答
					

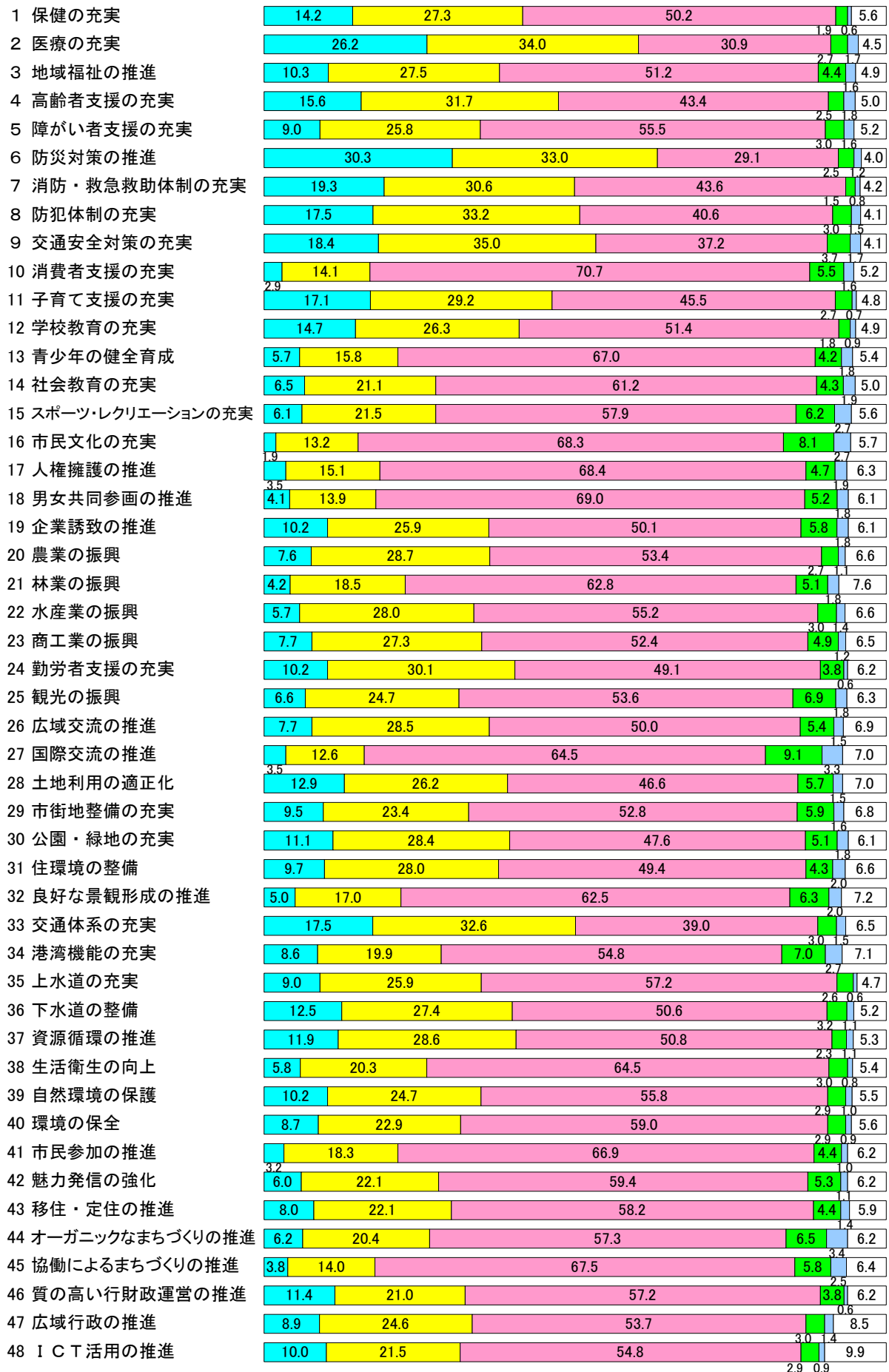
(%)



今後の優先度

(n=1,083)

『高い(計)』			『低い(計)』		
高い	やや高い	普通	やや低い	低い	無回答
					



(2) 現在の満足度と今後の優先度の加重平均による分析

木更津市の行政サービス48項目に関する現在の満足度と今後の優先度について、29～31ページに示したように5段階の評価を得たが、その結果を相対的に比較しやすくするため、それぞれの回答に、得点としての重みを与え、その平均値を「加重平均値」として計算し、行政サービス間の順位を明らかにした。以下に「加重平均値」の計算方法を示す。

まず、それぞれの回答に以下のような得点を与えた。

現在の満足度では

「満足」を＋2点、「概ね満足」を＋1点、「普通」を0点、「やや不満」を－1点、「不満」を－2点

今後の優先度では

「高い」を＋2点、「やや高い」を＋1点、「普通」を0点、「やや低い」を－1点、「低い」を－2点

次に、以下の計算式により現在の満足度、今後の優先度の加重平均値を求めた。

$$\text{現在の満足度加重平均値} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 2 + \text{「概ね満足」の回答者数} \times 1 + \text{「普通」の回答者数} \times 0 + \text{「やや不満」の回答者数} \times (-1) + \text{「不満」の回答者数} \times (-2)}{n - (\text{無回答者数})}$$

$$\text{今後の優先度加重平均値} = \frac{\text{「高い」の回答者数} \times 2 + \text{「やや高い」の回答者数} \times 1 + \text{「普通」の回答者数} \times 0 + \text{「やや低い」の回答者数} \times (-1) + \text{「低い」の回答者数} \times (-2)}{n - (\text{無回答者数})}$$

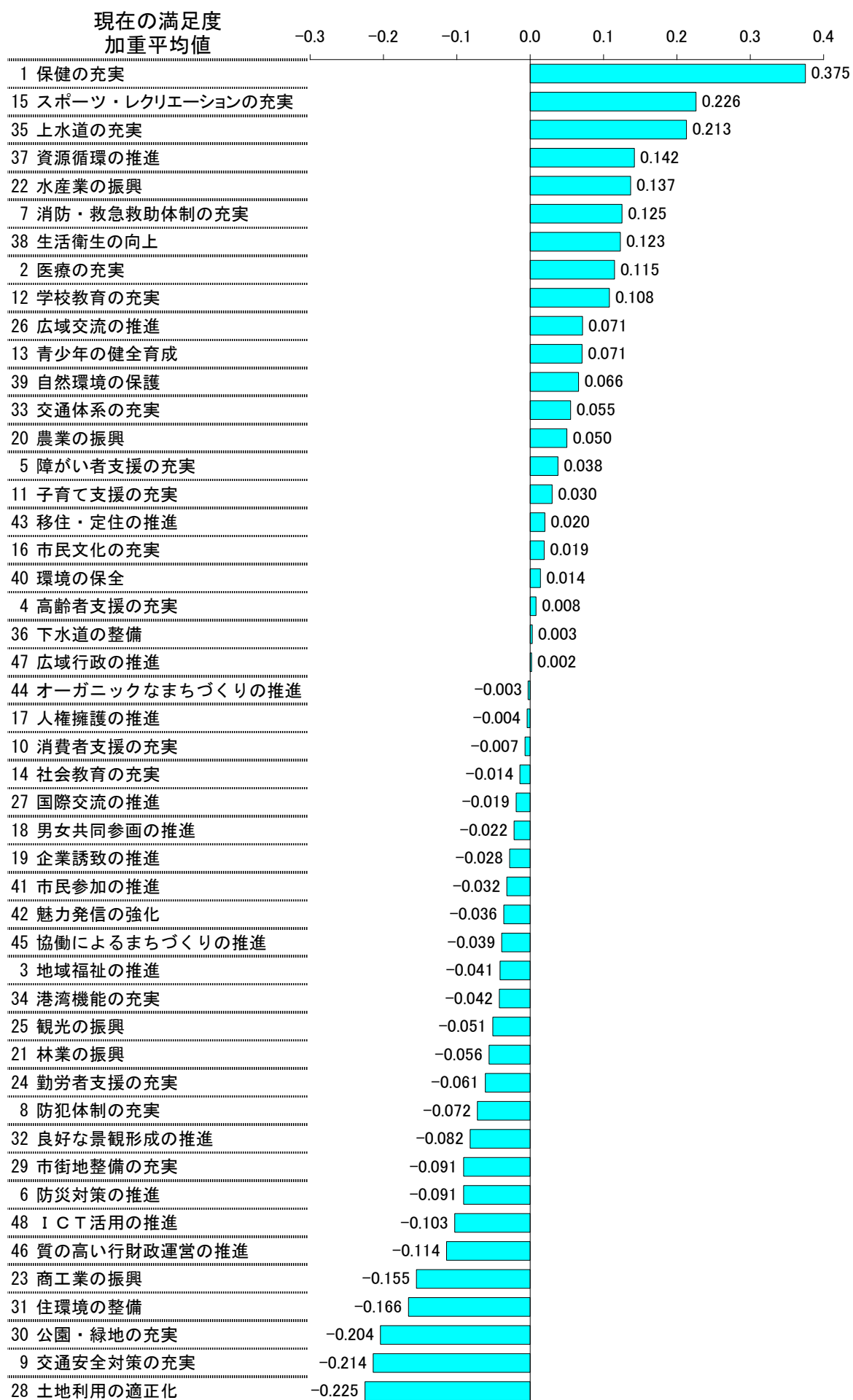
加重平均値は最大値が＋2、最小値が－2となり、＋2に近づくほど現在の満足度、今後の優先度が高いことを示す。

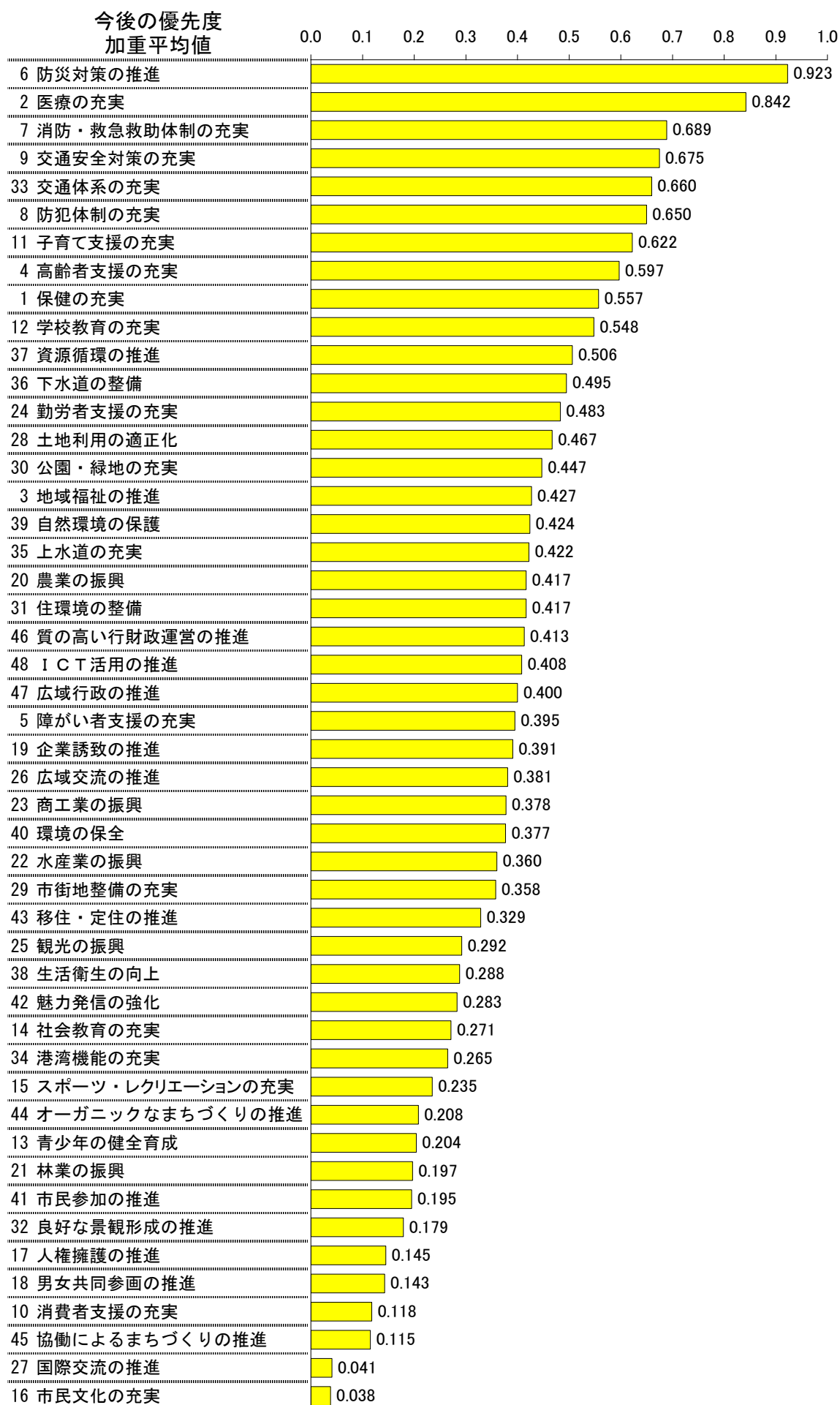
現在の満足度の加重平均値は、「1 保健の充実」が0.375で最も高く、次いで「15 スポーツ・レクリエーションの充実」(0.226)、「35 上水道の充実」(0.213)、「37 資源循環の推進」(0.142)、「22 水産業の振興」(0.137)の順となっている。

一方、「28 土地利用の適正化」が－0.225で最も低く、次いで「9 交通安全対策の充実」(－0.214)、「30 公園・緑地の充実」(－0.204)、「31住環境の整備」(－0.166)、「23 商工業の振興」(－0.155)の順となっている。

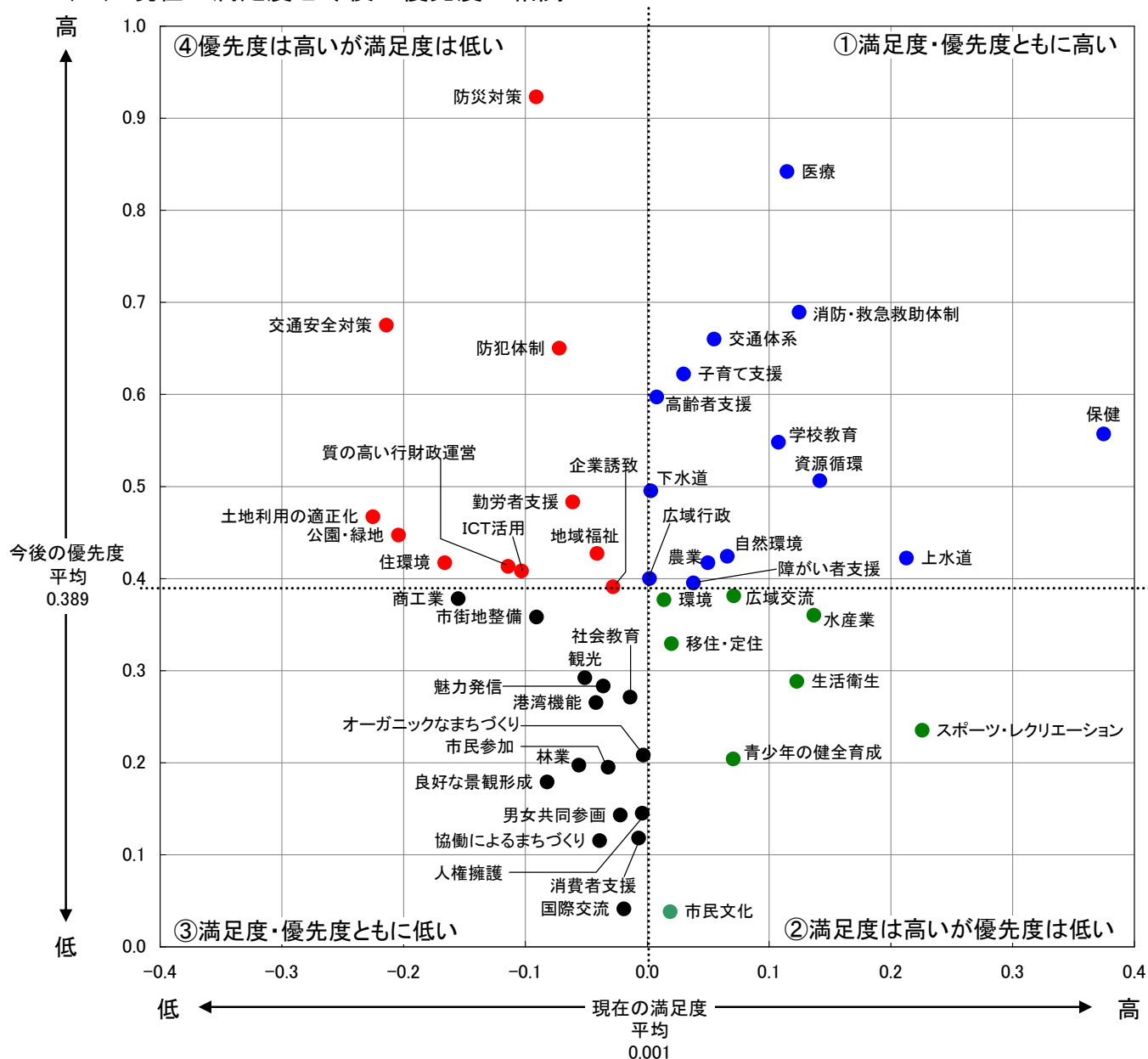
今後の優先度の加重平均値は、「6 防災対策の推進」が0.923で最も高く、次いで「2 医療の充実」(0.842)、「7 消防・救急救助体制の充実」(0.689)、「9 交通安全対策の充実」(0.675)、「33 交通体系の充実」(0.660)の順となっている。

一方、「16 市民文化の充実」が0.038で最も低く、次いで「27 国際交流の推進」(0.041)、「45 協働によるまちづくりの推進」(0.115)、「10 消費者支援の充実」(0.118)、「18 男女共同参画の推進」(0.143)の順となっている。





(3) 現在の満足度と今後の優先度の相関



(※) 作図の便宜上、29～34ページに示した48項目の行政サービスの項目名のうち、「の」とそれ以降の文言を省略して示している。ただし「青少年の健全育成」と「土地利用の適正化」の2項目は省略していない。

32～34ページで示した、木更津市の行政サービス48項目に関する現在の満足度と今後の優先度の加重平均値を、現在の満足度を横方向・今後の優先度を縦方向にとって、相関関係を示した。

現在の満足度の加重平均値48項目の平均 (0.001) より高い項目を「満足度が高い」、低い項目を「満足度が低い」とした。また、今後の優先度の加重平均値48項目の平均 (0.389) より高い項目を「優先度が高い」、低い項目を「優先度が低い」とし、これらを組み合わせて、以下の①～④に分類した。

その結果、図上の青の点で示した「①満足度・優先度ともに高い」行政サービスは14項目である。

図上の緑の点で示した「②満足度は高いが優先度は低い」行政サービスは8項目である。

図上の黒の点で示した「③満足度・優先度ともに低い」行政サービスは15項目である。

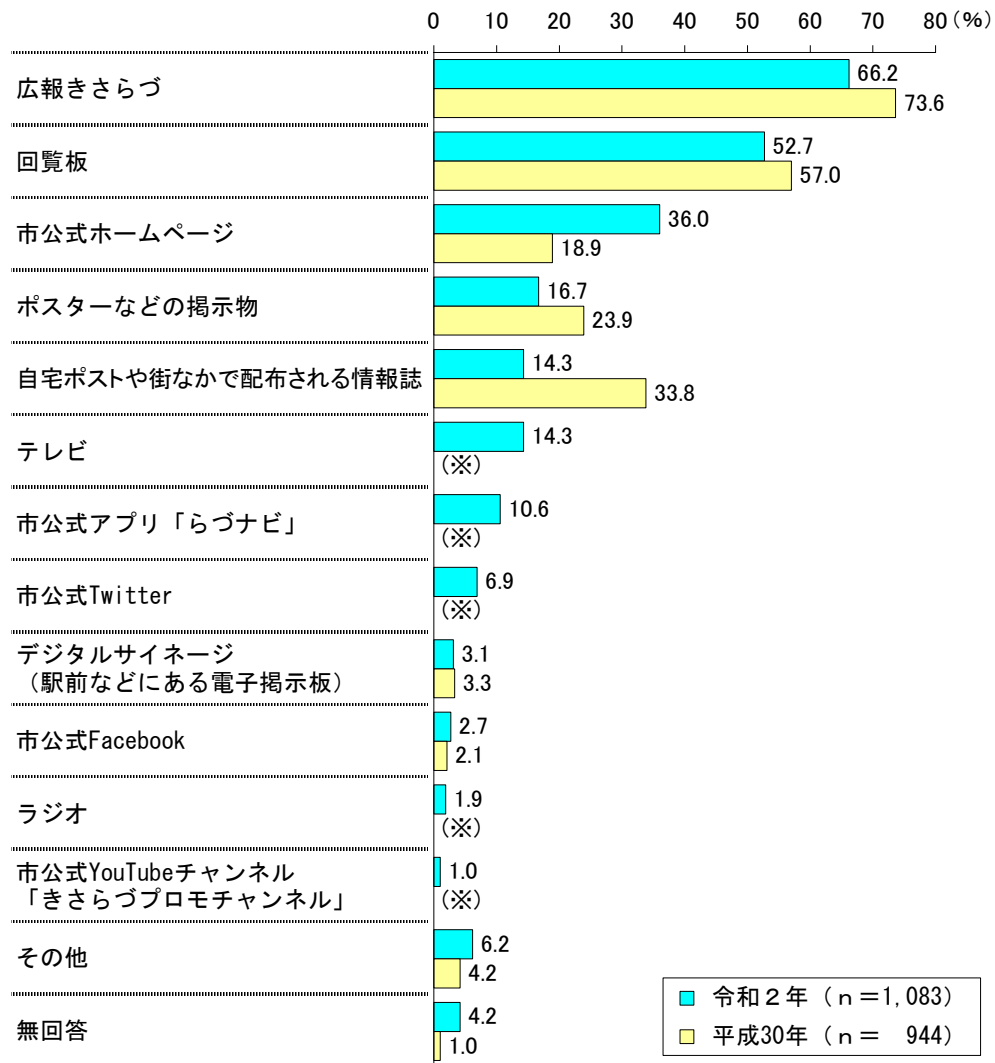
図上の赤の点で示した「④優先度は高いが満足度は低い」行政サービスは11項目あり、その中でも「防災対策の推進」、「交通安全対策の充実」、「防犯体制の充実」の3項目は特に今後の優先度が高くなっていることから、今後の重要施策になると考えられる。

5. 木更津市の情報について

(1) 木更津市に関する情報の入手方法

問14. あなたは普段、木更津市に関する情報をどのような方法で得ていますか。

(当てはまるものすべてに○)

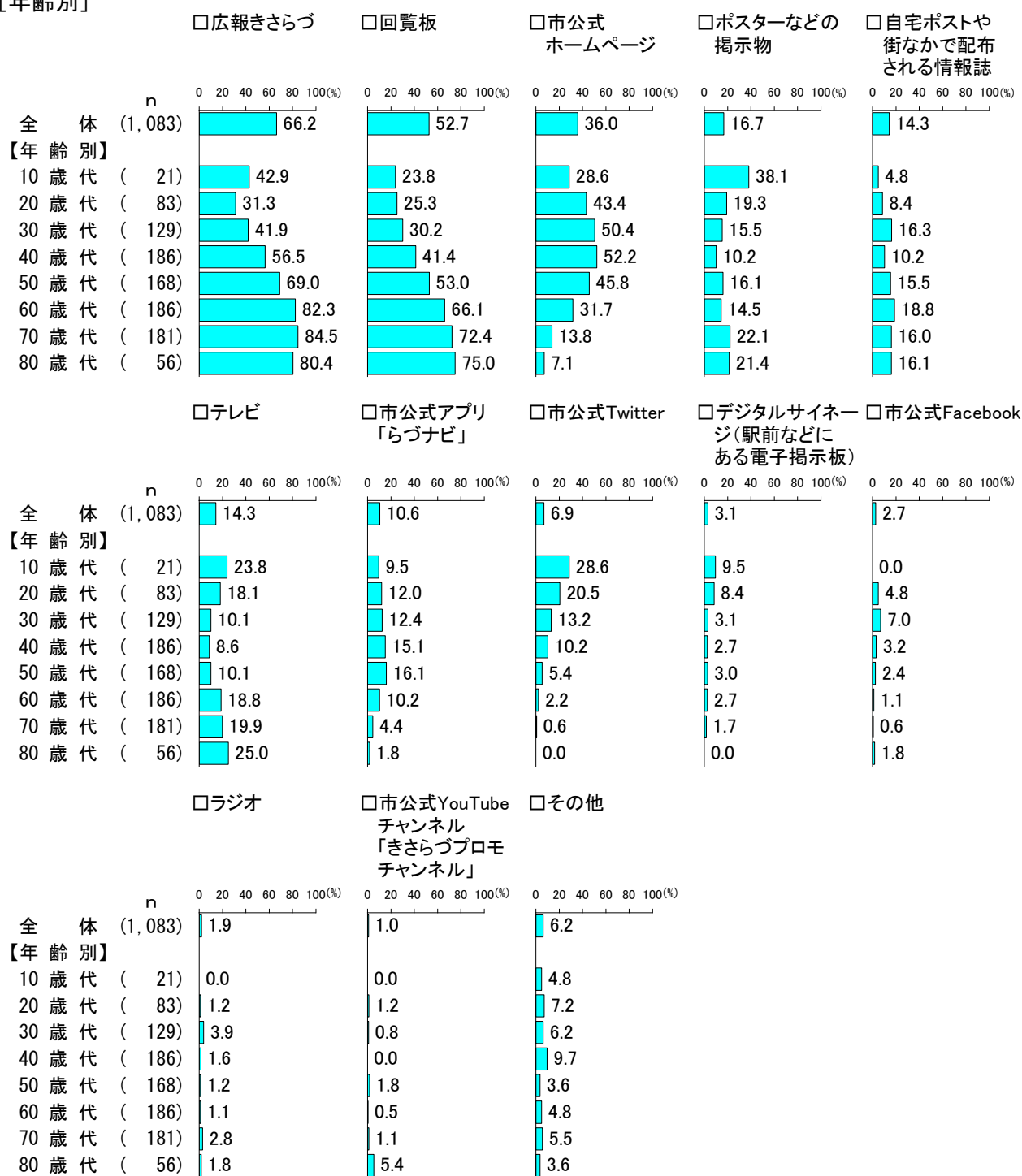


(※) 「テレビ」、「市公式アプリ『らづナビ』」、「市公式Twitter」、「ラジオ」、「市公式YouTubeチャンネル『きさらづプロモチャンネル』」の5つは、今回調査で追加した選択肢である。

木更津市に関する情報の入手方法については、「広報きさらづ」が66.2%で最も高く、次いで「回覧板」(52.7%)、「市公式ホームページ」(36.0%)、「ポスターなどの掲示物」(16.7%)、「自宅ポストや街なかで配布される情報誌」と「テレビ」(ともに14.3%)の順となっている。

平成30年調査との比較は、一部の選択肢が追加されているため参考にとどまるが、「市公式ホームページ」が17.1ポイント増加している。一方、「自宅ポストや街なかで配布される情報誌」が19.5ポイント、「広報きさらづ」が7.4ポイント、「ポスターなどの掲示物」が7.2ポイント、それぞれ減少している。

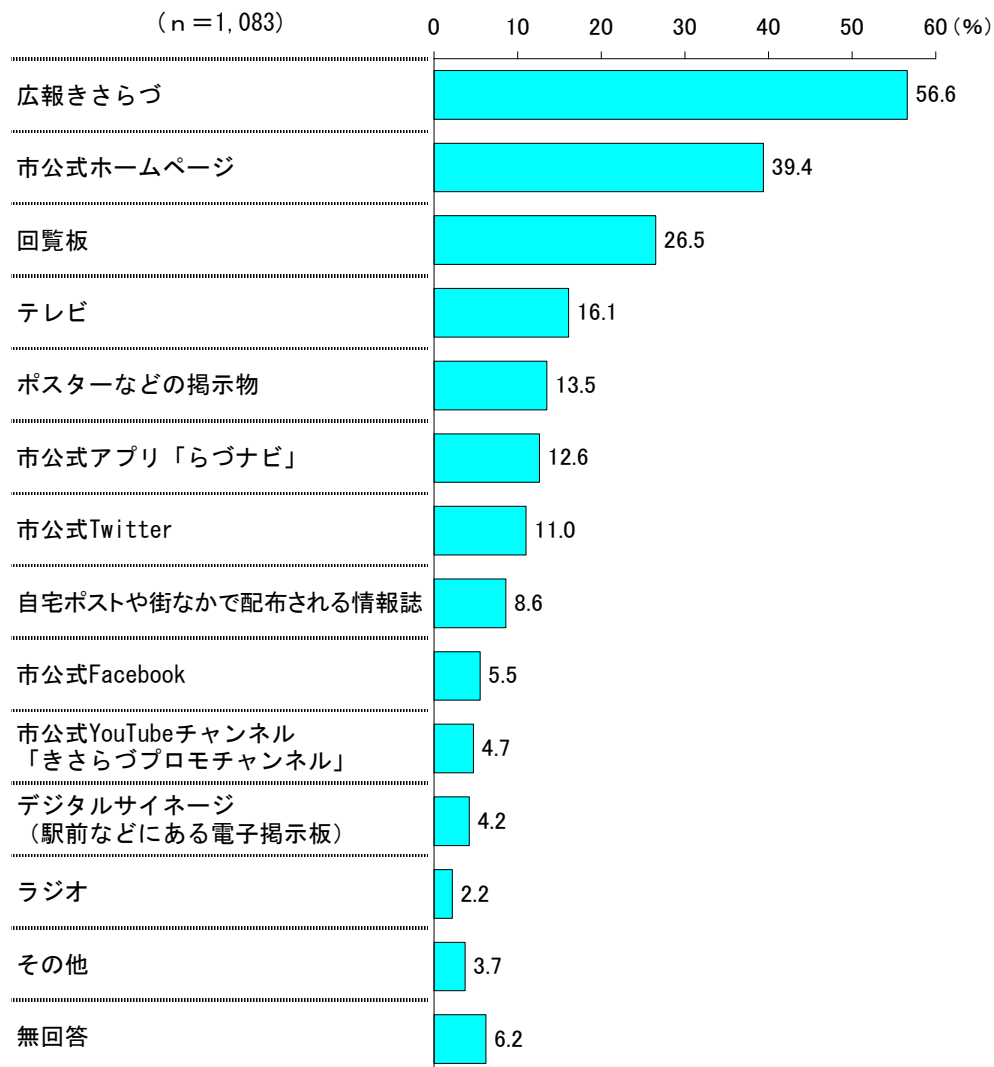
[年齢別]



年齢別でみると、「広報きさらづ」は70歳代が84.5%、60歳代が82.3%、80歳代が80.4%と高くなっている。「回覧板」は80歳代が75.0%、70歳代が72.4%、60歳代が66.1%と高くなっている。「市公式ホームページ」は40歳代が52.2%、30歳代が50.4%、50歳代が45.8%と高くなっている。「テレビ」は80歳代が25.0%と高くなっている。「市公式Twitter」は20歳代が20.5%と高くなっている。

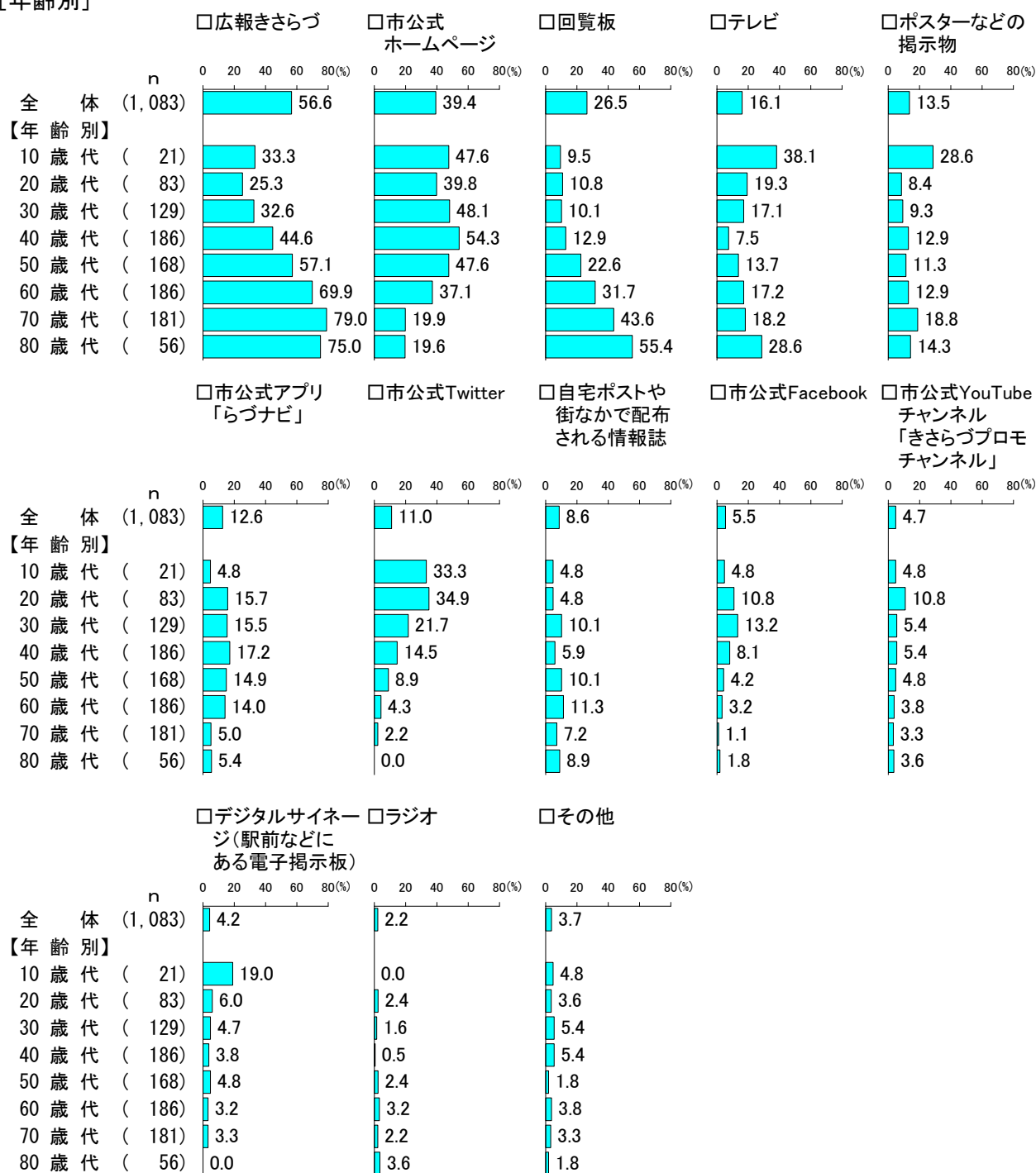
（２）木更津市に関する情報発信をより充実してほしい媒体

問15. 木更津市に関する情報を発信する媒体について、次の中から情報をより充実してほしいものは何ですか。（当てはまるものすべてに○）



木更津市に関する情報発信をより充実してほしい媒体については、「広報きさらづ」が56.6%で最も高く、次いで「市公式ホームページ」（39.4%）、「回覧板」（26.5%）、「テレビ」（16.1%）、「ポスターなどの掲示物」（13.5%）の順となっている。

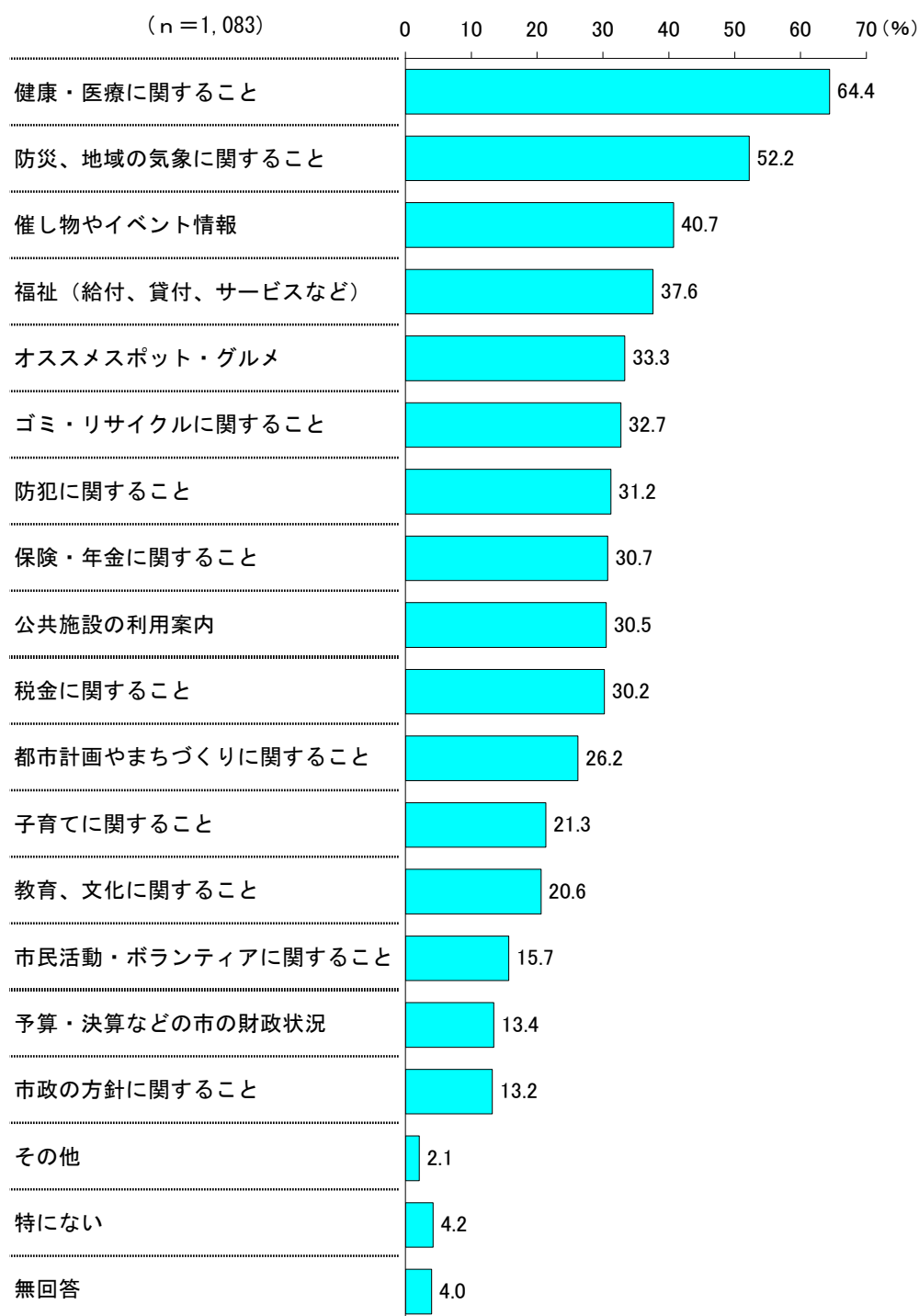
[年齢別]



年齢別でみると、「広報きさらづ」は70歳代が79.0%、80歳代が75.0%、60歳代が69.9%と高くなっている。「市公式ホームページ」は40歳代が54.3%と高くなっている。「回覧板」は80歳代が55.4%、70歳代が43.6%と高くなっている。「テレビ」は80歳代が28.6%と高くなっている。「市公式Twitter」は20歳代が34.9%、30歳代が21.7%と高くなっている。

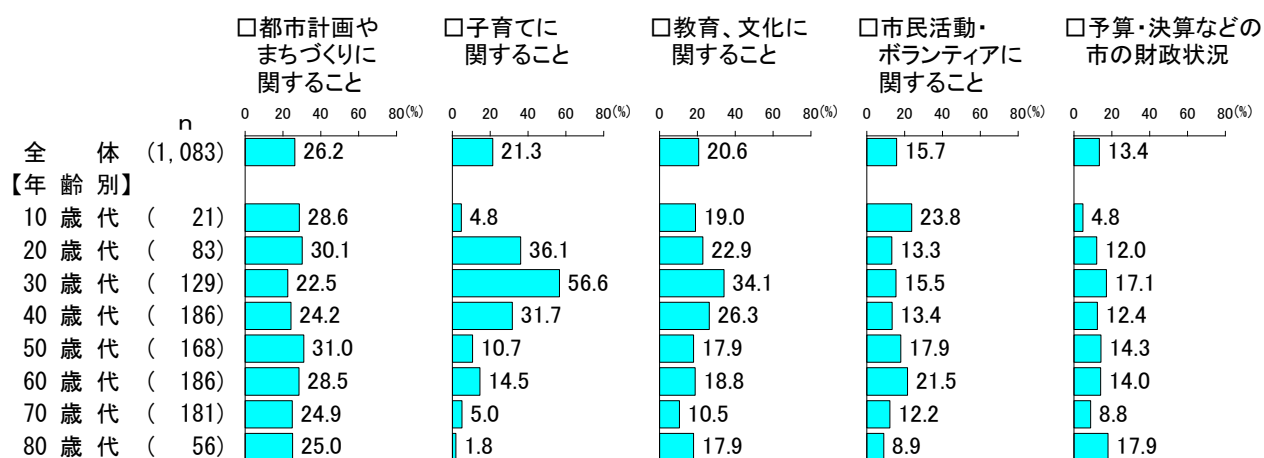
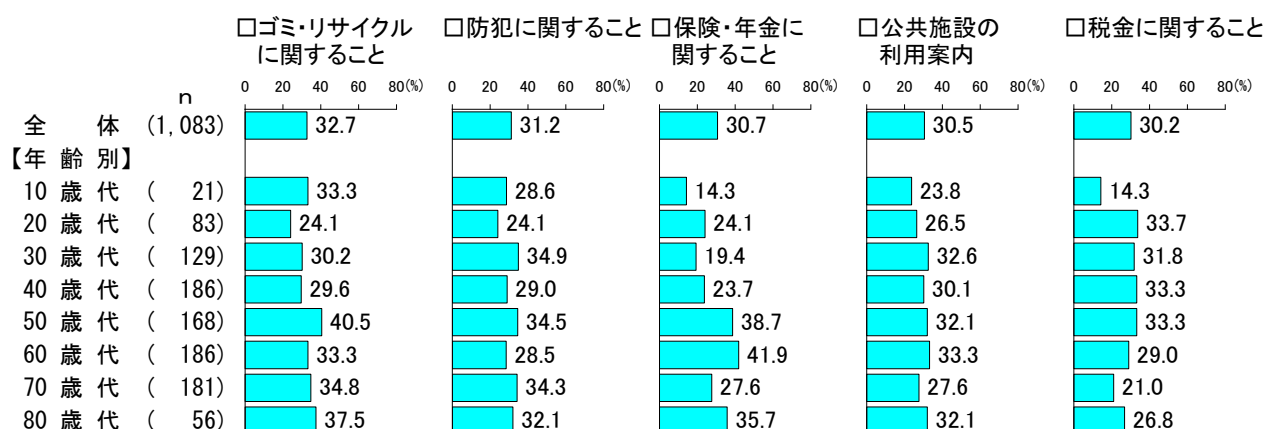
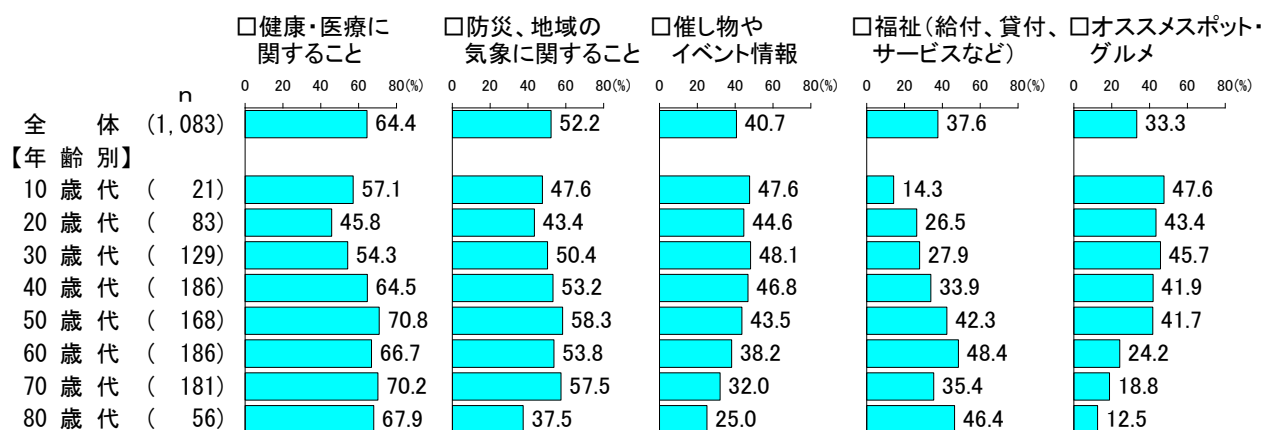
(3) 木更津市に関する情報で知りたいこと

問16. 木更津市に関する情報で知りたい情報は何ですか。(当てはまるものすべてに○)



木更津市に関する情報で知りたいことについては、「健康・医療に関すること」が64.4%で最も高く、次いで「防災、地域の気象に関すること」（52.2%）、「催し物やイベント情報」（40.7%）、「福祉（給付、貸付、サービスなど）」（37.6%）、「オススメスポット・グルメ」（33.3%）の順となっている。

〔年齢別〕（上位15項目）



年齢別でみると、「福祉（給付、貸付、サービスなど）」は60歳代が48.4%と高くなっている。「オススメスポット・グルメ」は30歳代が45.7%、20歳代が43.4%、40歳代が41.9%、50歳代が41.7%と高くなっている。「ゴミ・リサイクルに関すること」は50歳代が40.5%と高くなっている。「保険・年金に関すること」は60歳代が41.9%、50歳代が38.7%と高くなっている。「子育てに関すること」は30歳代が56.6%、20歳代が36.1%、40歳代が31.7%と高くなっている。「教育、文化に関すること」は30歳代が34.1%と高くなっている。

Ⅲ. 調査結果の概要と考察

1. 木更津市へのイメージについて

- 木更津市に「愛着や誇りを感じている」または「少しは愛着や誇りを感じている」と答えた方は73.6%で、平成30年調査と大きな傾向の違いはみられない。
- 定住意向については、「ずっと住み続けたい」または「できれば住み続けたい」と答えた方は76.3%で、平成30年調査と大きな傾向の違いはみられない。一方、「できれば転出したい」または「転出するつもり」と答えた方は、居住期間が3年未満の方が32.8%、居住期間が3～5年の方が19.0%と高くなっている。
- 木更津市の魅力については、「東京湾アクアラインや圏央道などの広域道路ネットワーク」が75.2%、「東京、神奈川方面への高速バス」が71.7%、「木更津港まつり（やっさいもっさい踊り、花火大会）」が48.0%、「潮干狩り」が35.9%、「海や山などの自然環境」が32.3%などとなっているが、このうち「木更津港まつり（やっさいもっさい踊り、花火大会）」、「潮干狩り」、「海や山などの自然環境」については、木更津市へ「愛着や誇りをあまり感じない」や「愛着や誇りを全く感じない」と答えた方で割合が低い傾向にある。
- 今後、転入者の増加を図るため、木更津市の魅力を市外へ向けて情報発信する取り組みを強化するとともに、居住期間の短い市民に定住を促すため、市民が魅力を感じている木更津市の良さについての広報活動を積極的に行うことが必要であると考えられる。

2. 木更津市の取り組みについて

（1）「オーガニックなまちづくり」について

- 「オーガニックなまちづくり」の認知度については、「理解し、自ら行動している」が0.9%、「理解している」が8.1%となっている。一方、「はじめて聞いた」が46.8%、「聞いたことはあるが、よく分からない」が41.5%となっている。平成30年調査との比較では、「聞いたことはあるが、よく分からない」が4.0ポイント、「理解している」が3.5ポイント増加している一方、「はじめて聞いた」が7.0ポイント減少しており、施策認知度はやや向上している。
- 「はじめて聞いた」は20歳代が66.3%、居住期間が3～5年の方が64.3%、居住期間が3年未満の方が64.1%と高くなっていることから、若年層や転入者に対する広報活動を積極的に推進し、市民の施策認知度を高めていく必要があると考えられる。

（2）市民活動について

- 市民活動の参加状況については、「自分の興味のある分野でのボランティア活動など、地域の垣根を越えて活動している」（3.0%）と「自治会や消防団など、地域内での市民活動に関わっている」（14.8%）を合わせた、市民活動に参加している方の割合は17.8%となっている。「機会や時間がないので参加していないが、参加してみたいと思う」は32.8%となっている。
- 市民活動に参加している方の割合は60歳代が24.2%と高くなっている。また「機会や時間がないので参加していないが、参加してみたいと思う」は20歳代が45.8%、40歳代が42.5%と高くなっていることから、参加を希望する若年層に対し、活動内容についての情報提供を積極的に行い、参加のきっかけづくりを行うことが必要であると考えられる。

(3) 電子地域通貨「アクアコイン」について

- 電子地域通貨「アクアコイン」の利用状況については、「よく利用している」(1.0%)と「利用したことがある」(4.2%)を合わせた、利用経験のある方の割合は5.2%となっている。年齢別、職業別でみると、利用経験のある方について大きな傾向の違いはみられない。
- 電子地域通貨「アクアコイン」の利用促進のために改善が必要なことは、「加盟店舗数の増加」が45.9%、「ポイント還元率の上昇」が35.4%、「現金チャージが可能な場所の増加」が29.2%、「クレジットカードによるチャージ方法の追加」が21.8%となっており、認知度の向上に向けた取り組みはもとより、利用店舗数の増加、チャージ方法の多様化などの利便性の向上を図る必要があると考えられる。

(4) 「きさらづ安心・安全メール」について

- 「きさらづ安心・安全メール」に登録している方は30.1%となっており、特に40歳代が47.3%、30歳代が41.1%、50歳代が38.7%と高くなっている。
- 登録していない理由については、「安心・安全メールを知らなかった」が27.2%、「登録方法がわからない」が19.5%などとなっており、認知度を高める取り組みや、登録方法のサポート体制の充実が必要であると考えられる。

3. 行政サービスに関する満足度、今後の優先度について

- 木更津市の行政サービス48項目に関する現在の満足度の評価が最も高いのは「保健の充実」で、次いで「スポーツ・レクリエーションの充実」、「上水道の充実」などとなっている。また、今後の優先度の評価が最も高いのは「防災対策の推進」で、次いで「医療の充実」、「消防・救急救助体制の充実」などとなっている。
- 木更津市の行政サービス48項目に関する現在の満足度と今後の優先度の相関関係をみると、「優先度は高いが満足度は低い」に分類された行政サービスは11項目あり、その中でも「防災対策の推進」、「交通安全対策の充実」、「防犯体制の充実」の3項目は特に今後の優先度が高くなっていることから、今後の重要施策になると考えられる。

4. 木更津市の情報について

- 木更津市に関する情報の入手方法については、「広報きさらづ」が66.2%で最も高く、次いで「回覧板」が52.7%、「市公式ホームページ」が36.0%などとなっている。平成30年調査と比較すると、「市公式ホームページ」が17.1ポイント増加し、「広報きさらづ」が7.4ポイント減少している。
- 木更津市に関する情報発信をより充実してほしい媒体については、「広報きさらづ」が56.6%で最も高く、次いで「市公式ホームページ」が39.4%、「回覧板」が26.5%などとなっている。年齢別でみると、「広報きさらづ」は60歳代以上の年代で、「市公式ホームページ」は50歳代以下の年代で割合が高くなっている。
- 木更津市に関する情報で知りたいことについては、50歳代以下の年代で割合が高いものとして「オススメスポット・グルメ」、20歳代から40歳代で割合が高いものとして「子育てに関すること」や「教育、文化に関すること」が挙げられており、発信する情報内容により、年代に応じたよりニーズの高い媒体での情報発信が必要であると考えられる。

魅力あるまちづくりに関する市民アンケート

報 告 書

令和2年12月

木更津市企画部企画課

千葉県木更津市富士見一丁目2番1号

電 話 (0438) 23-7425

FAX (0438) 23-9338

メール kikaku@city.kisarazu.lg.jp